HONDA



OWNER'S MANUAL

CB1300 SUPER FOUR
CB1300 SUPER FOUR SP
CB1300 SUPER BOL D'OR
CB1300 SUPER BOL D'OR SP

Honda 車をお買いあげいただきありがとうございます。
安全で快適なバイクライフをお楽しみください。

この取扱説明書と共に「メンテナンスノート」を受取り、下記を確認してください。
- お車の正しい取り扱いかた
- 保証内容と保証期間
- 点検・整備について
- 車両受領書・保証書受領書の記入・捺印

安全運転の基本として以下は重要ですので、お守りください。
- この取扱説明書を、よくお読みください
- 取扱説明書の推奨手順に従ってください
- 安全に関する表示を理解し、守ってください

安全に関する表示

「運転者や他の方が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、右記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠ **危険** **指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの**

⚠ **警告** **指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの**

⚠ **注意** **指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの**

その他の表示

アドバイス　お車のために守っていただきたいこと

車の仕様、その他の変更により、この本の表紙や内容と実車が一致しない場合があります。
車を譲られる場合、次の方にこの取扱説明書およびメンテナンスノートをお渡しください。
この取扱説明書は、**CB1300 SUPER BOL D'OR** を中心に説明しています。イラストは **CB1300 SUPER BOL D'OR** をベースにしています。

目次

安全なライディング P. 2

操作ガイド P. 14

メンテナンス P. 56

こんなときは P. 96

インフォメーション P. 105

スペック P. 118

索引 P. 121

安全なライディング

この章では安全な運転のために必要な情報を記載しています。
安全のためによくお読みください。

安全上守っていただきたいこと ..... P. 3
安全運転のために ..... P. 3
運転するときの注意 ..... P. 5
アクセサリーと改造について ..... P. 11
積載について ..... P. 12

安全上守っていただきたいこと

安全のため、日常的に次の内容をお守りください。

- 道路運送車両法で定められた日常点検・定期点検を行ってください
- ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください
- 排気ガスには一酸化炭素（CO）などの有害な成分が含まれているため、エンジンは、風通しの良い場所でかけてください

安全運転のために

- 走行中、運転者は両手でハンドルを握り、両足をステップに置いてください
- 同乗者が両手でからだを固定し、両足を後席用ステップにのせているか確認してください
- 急激なハンドル操作や片手運転などはさけ、安全な運転を心がけてください
- 同乗者、他の車両、歩行者などに対する配慮を欠かさないでください
- ウインドスクリーン、フェアリングと車体の間に物を置かないでください。

乗車時の服装

運転者と同乗者は必ずヘルメットを着用し、天候や走行状況に応じ、安全性が高く運転操作のしやすい、被視認性の高い二輪車用の服装を着用してください。

次ページに続く

ヘルメット

安全基準を満たし、頭のサイズにあった視認性の高いもの

- 二輪車用で PSC、SG マークか JIS マークのあるものを推奨します
- 正しくかぶり、あごひもを確実に締めてください
- 視界を妨げないフェイスシールドまたはゴーグルなどを使用し、眼を保護してください

⚠ 警告

ヘルメットを正しく着用していないと、万一の事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。

運転者と同乗者は乗車時、必ずヘルメット、保護具および保護性の高い服を着用してください。

グローブ

摩擦に強い皮製のもの

ブーツまたはライディングシューズ

滑りにくく、くるぶしまで覆われたもの

ジャケット・パンツ

プロテクターを備え、体の露出の少ない長袖・長ズボン

運転するときの注意

慣らし運転

適切な慣らし運転を行うと、お車の性能をより良い状態に保つことができます。

慣らしのポイント（走行距離 500 km まで）

- 急発進、急加速をさける
- 急ブレーキ、急なシフトダウンをさける
- 控えめな運転をする

ブレーキ

次の項目に注意してください。

- 制動力を効果的に得るために前輪ブレーキと後輪ブレーキを同時に使う
- 不必要な急ブレーキ、急なシフトダウンをしない
  - ▶ タイヤをロックさせるなど、車体の安定性を損なうおそれがあります。
  - ▶ コーナリングの際は、コーナーの手前で減速してください。
- 雨天走行など滑りやすい路面に注意する
  - ▶ タイヤがロックしやすく、制動距離が長くなります。
- 連続したブレーキ操作をしない
  - ▶ 長い坂や急な坂で繰り返しブレーキをかけると、ブレーキの温度が上昇して効きが悪くなるおそれがあります。エンジンブレーキと断続的なブレーキ操作を併用してください。

次ページに続く

ABS（アンチロックブレーキシステム）

ABS は、直進制動時のブレーキのかけすぎによる車輪ロックを制御する装置です。
ABS を正常に機能させるため、必ず前後とも指定のタイヤ、スプロケットをお使いください。

- 制動距離を短くするためのものではない
  - ▶ ABS を装備していない車両と同様に、路面が滑りやすくなるほど長い制動距離が必要になります。
- 低速（約 10 km/h 以下）では普通のブレーキと同じ作動になる
- ブレーキ操作時に、レバーやペダルに反動が生じることがある
  - ▶ ABS が作動しているときの現象で異状ではありません。反動の強さは状況によって異なります。

エンジンブレーキ

スロットルを戻すと、エンジンブレーキが効きます。さらにエンジンブレーキを必要とするときは 5 速、4 速・・・とシフトダウンを行ってください。急激なシフトダウンは、尻振りなどの原因や、エンジンやトランスミッションに悪影響を与えます。また、長い下り坂や急な下り坂などでは、断続的なブレーキ操作とエンジンブレーキを併用してください。

雨天または水たまりを走行したとき

路面が滑りやすくなったり、ブレーキの効き具合が変化します。慎重なブレーキ操作を心がけてください。ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキを乾かしてください。

駐車するとき

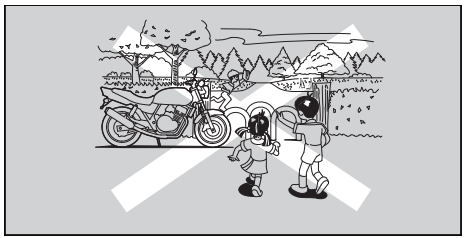
- 交通の邪魔にならない平坦で足場のしっかりした安全な場所に駐車する
- やむをえず傾斜地や足場の悪い場所に駐車するときは、車の転倒や動き出しがないよう安全処置に十分注意する
- 盗難防止のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーを抜く

サイドスタンドまたはメインスタンドでの駐車

1. メインスイッチを○（Off）にする。
2. **サイドスタンドでの駐車**
   サイドスタンドを下げ、車の重量がサイドスタンドにかかるまで、車をゆっくり左に傾ける。
   ▶ ハンドルを右にきった状態での駐車は、車が不安定になり、転倒するおそれがあります。

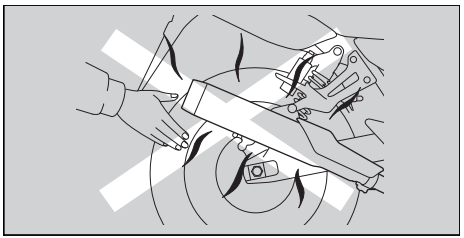
   メインスタンドでの駐車
   左手でハンドルをまっすぐにし、右手でグラブレールをしっかり持ち右足でスタンドを左右同時に地面につけて、立たせる。
3. ハンドルバーを左いっぱいにきる。
4. ハンドルロックをかけ、キーを抜く。 P. 34

● マフラーなどが熱くなっているので、他の方が触れることのない場所に駐車する





● エンジン回転中および停止後しばらくの間はマフラー、エンジンなどに触れない



⚠ 注意

マフラー、エンジン、ブレーキなどは、エンジン回転中および停止後しばらくの間は熱くなっています。触れるとヤケドを負う可能性があります。

- マフラー、エンジン、ブレーキなど高温になる部分は冷えるまで触れないこと
- 高温になる部分に可燃物が接触せず、他の方が触れることのないよう配慮すること

燃料補給およびガソリンの取り扱い

エンジン、燃料装置、触媒装置の損傷を防ぐため、下記に注意してください。

- 無鉛レギュラーガソリンを使用する
- 高濃度アルコール含有燃料を補給しない
- 軽油や粗悪ガソリン（長期間保管したガソリン）、または不適切な燃料添加剤を使わない
- 燃料タンクの中に、泥、ほこり、水などを入れない

⚠ 警告

ガソリンは燃えやすくヤケドを負ったり爆発して重大な傷害に至る可能性があります。また身体に帯電した静電気の火花により引火する可能性があります。

ガソリンを取り扱うときは以下のことを守ってください。

- エンジンを止め、火元を遠ざける
- 給油は必ず屋外で行う
- こぼれたガソリンは、すぐに拭き取る
- 給油作業前に車体や給油機などの金属部分に触れて静電気を除去する

次ページに続く

Honda セレクタブル トルク コントロール

このシステムは、アクセルオンの状態で後輪の空転を検知した際に、後輪への駆動力を制限します。くわえて、加速時の急激なウイリーを緩和します。

- トルクコントロールは減速時には作動せず、エンジンブレーキによる後輪のロックは防止しない
  - ▶ スロットルを急に閉じる操作はさけてください。特に、滑りやすい路面ではさけてください。
- トルクコントロールは、急なスロットル操作や誤ったスロットル操作、道路状態などを補完するものではない
  - ▶ 天候や路面状況に対して常に十分な注意をしてください。
- トルクコントロールを停止状態(OFF)にすることで、ぬかるみ、雪、砂地などからの脱出が容易になる場合やオフロード走行時にバランスやコントロールの維持が容易になる場合がある

トルクコントロールを正常に機能させるため、タイヤやエンジンおよび後輪側のスプロケットは指定のものをお使いください。

アクセサリーと改造について

アクセサリーを装着する際は、安全面から Honda 純正アクセサリーを推奨します。Honda 販売店にご相談ください。
Honda 販売店で取り付けられた Honda アクセサリーなどの取り扱いについては、その商品に付属の説明書をお読みください。
車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることがあります。不正改造は法律に触れることはもちろん、他の迷惑行為となります。
車の改造は保証の適用を除外されます。

⚠ 警告

不適切なアクセサリーや改造は、万一の事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。

アクセサリーを装着する際は、Honda 販売店にご相談のうえ、取扱説明書に従ってください。

積載について

- 荷物を積むと積まないときにくらべて操縦安定性が変わるため、安全な速度で走行してください
- 荷物の積みすぎに注意し、確実に固定して安全な速度で走行してください
- ハンドル操作ができなくなる場合があるので、ハンドル付近に物を置かないでください
- ヘッドライト、ウィンカー、ストップ／テールランプ、マフラー周辺への積載はさけてください
  - ▶ 過熱によりレンズが溶けたり、荷物が損傷する場合があります。
- カバー等が破損する場合があるので、指定の場所以外に荷物を積まないでください
  - ▶ 走行やハンドル操作に支障をきたすことがあります。
- レンガや鉄片等、固くて重いものをシート下スペースに積んだまま走行しないでください
  - ▶ 積載重量以内でもシート下スペース底面が損傷する場合があります。
- 貴重品やこわれ易いものは積まないでください
- シート下スペースに熱の影響を受け易い物は積まないでください
- 荷物の積載は下記重量までです

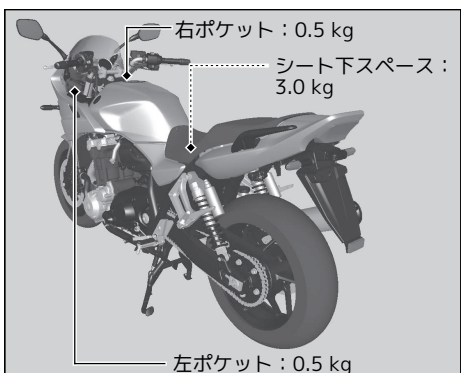
  シート下スペース：3.0 kg

  CB1300 SUPER BOL D'OR／CB1300 SUPER BOL D'OR SP

  右ポケット：0.5 kg

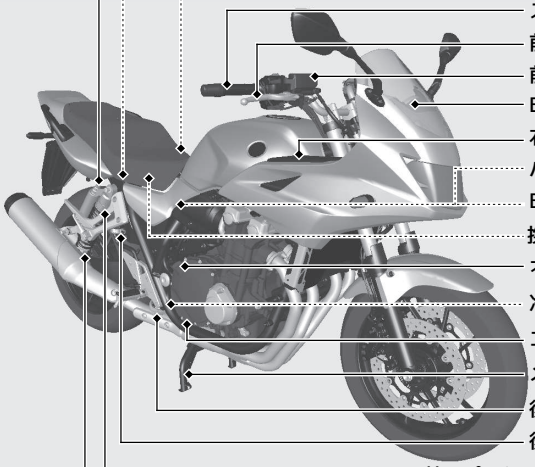
  CB1300 SUPER BOL D'OR／CB1300 SUPER BOL D'OR SP

  左ポケット：0.5 kg

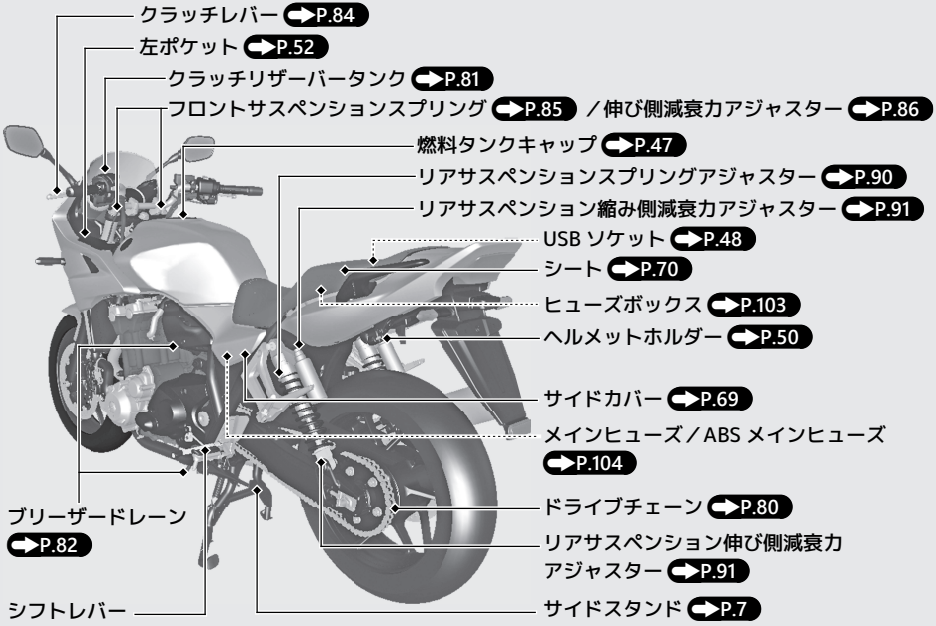


各部の名称

CB1300 SUPER BOL D'OR



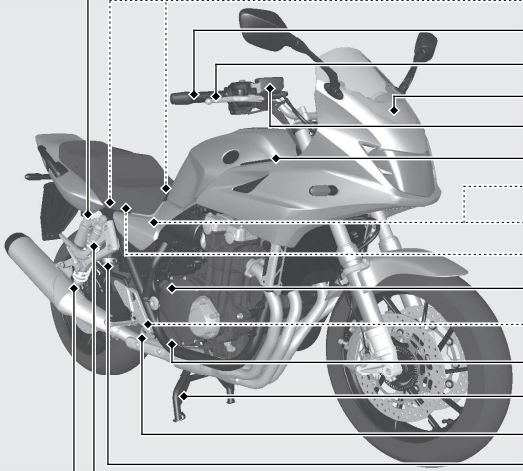
リアサスペンション縮み側減衰力アジャスター P.91
ヘルメットホルダー P.50
スロットルグリップ P.83
前輪ブレーキレバー P.84
前輪ブレーキリザーバータンク P.78
ETC アンテナ P.55
右ポケット P.52
バッテリー P.71
ETC 車載器 P.55
携帯工具／書類入れ P.51
オイルフィルキャップ P.75
冷却水リザーバータンク P.77
エンジンオイル点検窓 P.75
メインスタンド P.7
後輪ブレーキペダル
後輪ブレーキリザーバータンク P.78
リアサスペンションスプリングアジャスター P.90
リアサスペンション伸び側減衰力アジャスター P.91


クラッチレバー P.84
左ポケット P.52
クラッチリザーバータンク P.81
フロントサスペンションスプリング P.85 ／伸び側減衰力アジャスター P.86
燃料タンクキャップ P.47
リアサスペンションスプリングアジャスター P.90
リアサスペンション縮み側減衰力アジャスター P.91
USB ソケット P.48
シート P.70
ヒューズボックス P.103
ヘルメットホルダー P.50
サイドカバー P.69
メインヒューズ／ABS メインヒューズ P.104
ドライブチェーン P.80
リアサスペンション伸び側減衰力アジャスター P.91
サイドスタンド P.7
ブリーザードレーン P.82
シフトレバー

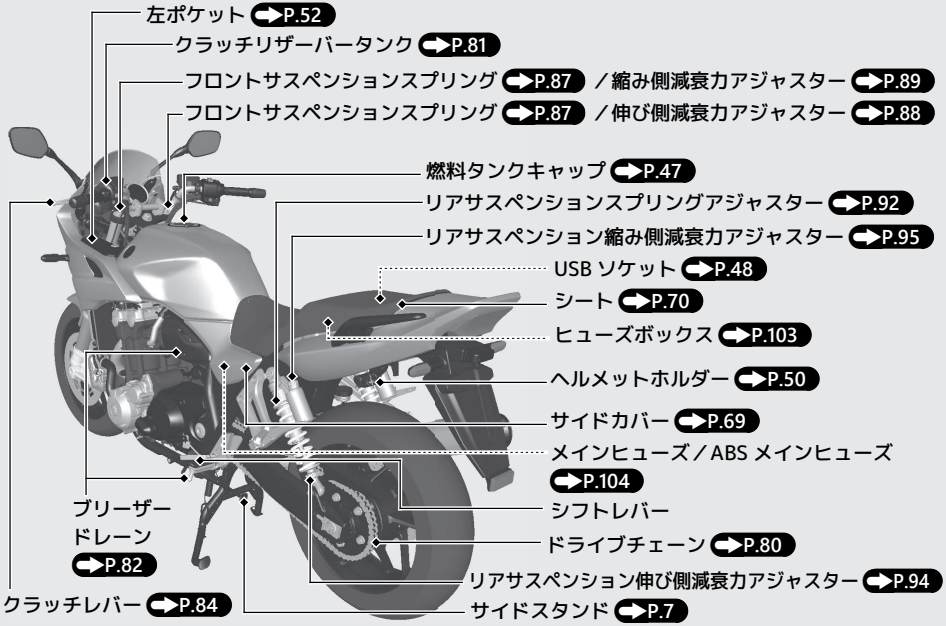
次ページに続く

各部の名称 前ページの続き

CB1300 SUPER BOL D'OR SP



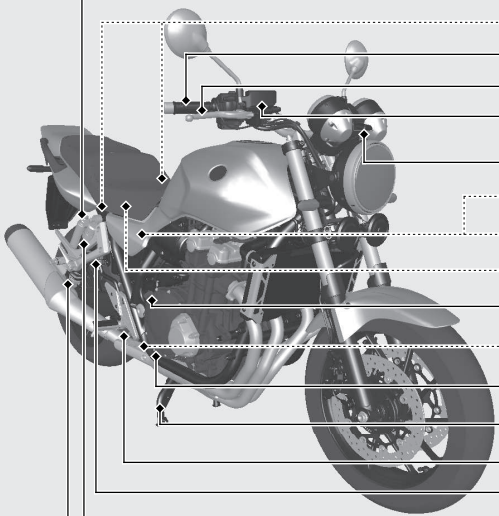
リアサスペンション縮み側減衰力アジャスター P.95
ヘルメットホルダー P.50
スロットルグリップ P.83
前輪ブレーキレバー P.84
ETC アンテナ P.55
前輪ブレーキリザーバータンク P.78
右ポケット P.52
バッテリー P.71
ETC 車載器 P.55
携帯工具／書類入れ P.51
オイルフィルキャップ P.75
冷却水リザーバータンク P.77
エンジンオイル点検窓 P.75
メインスタンド P.7
後輪ブレーキペダル
後輪ブレーキリザーバータンク P.78
リアサスペンションスプリングアジャスター P.92
リアサスペンション伸び側減衰力アジャスター P.94


左ポケット P.52
クラッチリザーバータンク P.81
フロントサスペンションスプリング P.87 ／縮み側減衰力アジャスター P.89
フロントサスペンションスプリング P.87 ／伸び側減衰力アジャスター P.88
燃料タンクキャップ P.47
リアサスペンションスプリングアジャスター P.92
リアサスペンション縮み側減衰力アジャスター P.95
USB ソケット P.48
シート P.70
ヒューズボックス P.103
ヘルメットホルダー P.50
サイドカバー P.69
メインヒューズ／ABS メインヒューズ P.104
シフトレバー
ドライブチェーン P.80
リアサスペンション伸び側減衰力アジャスター P.94
サイドスタンド P.7
ブリーザードレーン P.82
クラッチレバー P.84

次ページに続く

各部の名称 前ページの続き

CB1300 SUPER FOUR



リアサスペンション縮み側減衰力アジャスター P.91

ヘルメットホルダー P.50

スロットルグリップ P.83

前輪ブレーキレバー P.84

前輪ブレーキリザーバータンク P.78

ETC アンテナ P.55

バッテリー P.71

ETC 車載器 P.55

携帯工具／書類入れ P.51

オイルフィルキャップ P.75

冷却水リザーバータンク P.77

エンジンオイル点検窓 P.75

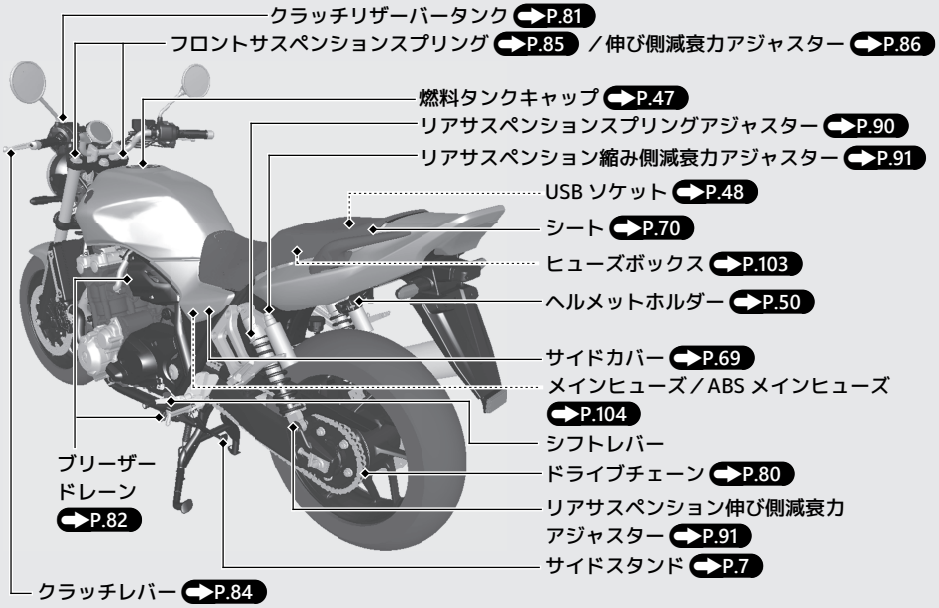
メインスタンド P.7

後輪ブレーキペダル

後輪ブレーキリザーバータンク P.78

リアサスペンションスプリングアジャスター P.90

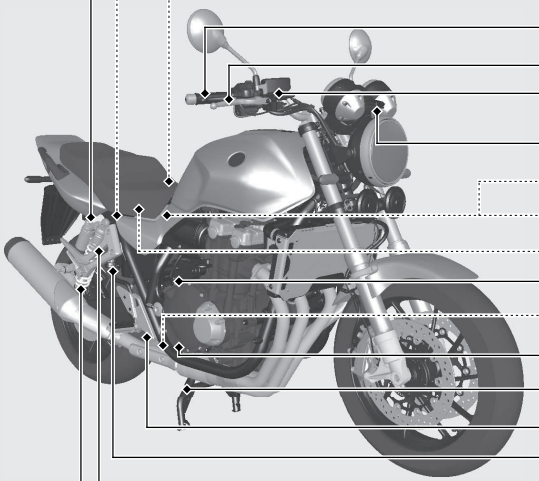
リアサスペンション伸び側減衰力アジャスター P.91


クラッチリザーバータンク P.81
フロントサスペンションスプリング P.85 ／伸び側減衰力アジャスター P.86
燃料タンクキャップ P.47
リアサスペンションスプリングアジャスター P.90
リアサスペンション縮み側減衰力アジャスター P.91
USB ソケット P.48
シート P.70
ヒューズボックス P.103
ヘルメットホルダー P.50
サイドカバー P.69
メインヒューズ／ABS メインヒューズ P.104
シフトレバー
ブリーザードレーン P.82
ドライブチェーン P.80
リアサスペンション伸び側減衰力アジャスター P.91
サイドスタンド P.7
クラッチレバー P.84

次ページに続く

各部の名称 前ページの続き

CB1300 SUPER FOUR SP



リアサスペンション縮み側減衰力アジャスター P.95

ヘルメットホルダー P.50

スロットルグリップ P.83

前輪ブレーキレバー P.84

前輪ブレーキリザーバータンク P.78

ETC アンテナ P.55

バッテリー P.71

ETC 車載器 P.55

携帯工具／書類入れ P.51

オイルフィルキャップ P.75

冷却水リザーバータンク P.77

エンジンオイル点検窓 P.75

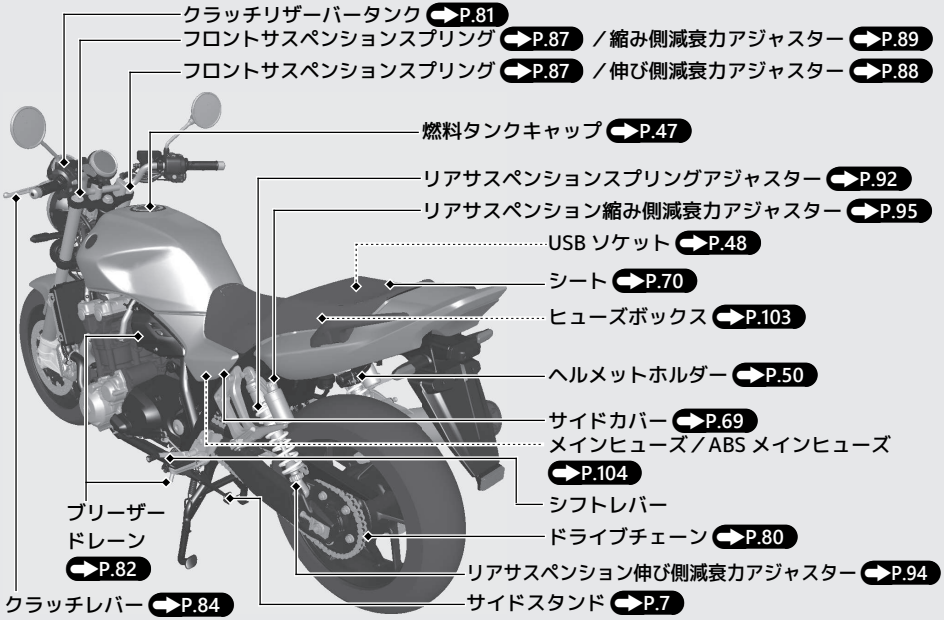
メインスタンド P.7

後輪ブレーキペダル

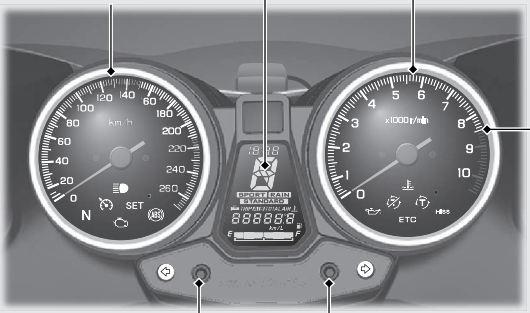
後輪ブレーキリザーバータンク P.78

リアサスペンションスプリングアジャスター P.92

リアサスペンション伸び側減衰力アジャスター P.94

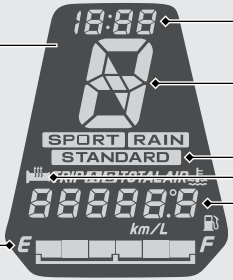

クラッチリザーバータンク P.81
フロントサスペンションスプリング P.87 ／縮み側減衰力アジャスター P.89
フロントサスペンションスプリング P.87 ／伸び側減衰力アジャスター P.88
燃料タンクキャップ P.47
リアサスペンションスプリングアジャスター P.92
リアサスペンション縮み側減衰力アジャスター P.95
USB ソケット P.48
シート P.70
ヒューズボックス P.103
ヘルメットホルダー P.50
サイドカバー P.69
メインヒューズ／ABS メインヒューズ P.104
シフトレバー
ブリーザードレーン P.82
ドライブチェーン P.80
リアサスペンション伸び側減衰力アジャスター P.94
クラッチレバー P.84
サイドスタンド P.7

メーター



メーターの初期表示

メインスイッチを ▌(On) にすると、全ての表示があらわれます。また、スピードメーターおよびタコメーターの指針が一度最高目盛りに振れた後、"0" に戻ります。表示されない部分がある場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。



時計（12 時間表示）
時計の合わせかた ➡P.28

ギアポジション表示
ギアポジションを表示

▶ トランスミッションが適切なシフトになっていない場合“–” が表示します。

▶ トランスミッションが、適切なシフトになっていても“–” が点滅するときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

ライディングモード ➡P.36

ハンドルグリップヒーターステータスアイコン
➡P.53

オドメーター[TOTAL]／トリップメーター[TRIP A/B]／平均燃費／水温計[🌡]／外気温計[A/R]
表示の切り換え ➡P.24

燃料計
マークが 1 つ（E）だけ点滅したときの燃料残量：約 4.0 ℓ



燃料計の故障表示 ➡P.101

アドバイス
燃料計が 1 つ（E）に近づいたら、早めに給油してください。燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。

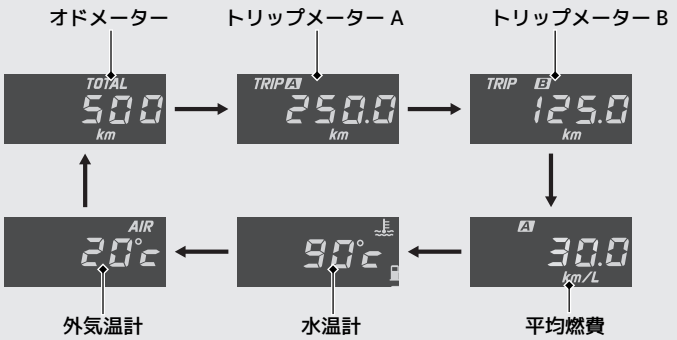
次ページに続く

メーター 前ページの続き

オドメーター[TOTAL]／トリップメーター[TRIP A/B]／平均燃費／水温計[🌡]／外気温計[AIR]表示

セレクトボタンを押してオドメーター、トリップメーターA、平均燃費、トリップメーターB、水温計、外気温計を切り換える。

トリップメーターをリセットするには P.26



⟶ セレクトボタンを押す

オドメーター[TOTAL]
オドメーター：総走行距離を表示
表示が"-----" になったときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

トリップメーター[TRIP A／B]
トリップメーター：トリップメーターを 0.0 km にリセットしてからの走行距離を表示
表示が"----.-" になったときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

平均燃費
トリップメーター A をリセットしてからの平均燃費を、km/L の単位で表示
平均燃費はトリップメーター A の走行距離をもとに表示
表示範囲：0.0 ～ 300.0 km/L
- 平均燃費が 300.0 km/L を超えた場合は "300.0" を表示します。
- トリップメーター A をリセットした場合は "---.-" を表示します。

上記の場合をのぞいて表示が"---.-" になったときは、Honda 販売店で点検を受けてください。
平均燃費をリセットするには P.26

水温計[ ]
表示範囲：35 ℃ ～ 132 ℃
- 34 ℃以下の場合は"---" を表示します。
- 122 ℃以上の場合は水温表示が点滅し、水温警告灯が点灯します。

水温が 100 ℃以上になる場合がありますが、沸騰温度をラジエーターキャップにより高めてあるため異常ではありません。
上記の場合をのぞいて表示が"---" で点滅したときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

外気温計[A/R]
表示範囲：-10 ℃ ～ 50 ℃
- -10 ℃未満のときは"---" を表示します。
- 50 ℃以上の場合は"50 ℃ " が点滅します。

停止中や低速走行中は外気温が正しく表示されないことがあります。

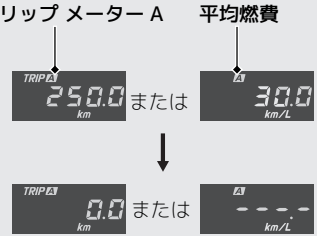
次ページに続く

メーター 前ページの続き

トリップメーター A、平均燃費のリセット

トリップメーター A をリセットすると、平均燃費も同時にリセットされます。

トリップメーター A および平均燃費をリセットするには、トリップメーター A または平均燃費を表示中に、セットボタンを押し続ける。



リセット後は選択していた表示に戻ります。

トリップメーター B のリセット

トリップメーター B をリセットするには、トリップメーター B を表示中に、セットボタンを押し続ける。



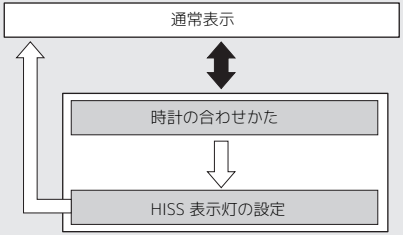
メーターの設定

以下の順で設定します。

- 時計の合わせかた
- HISS 表示灯の設定

以下の方法でもメーターの設定から通常表示に戻ることができます。

- 約 30 秒間ボタンの操作がない場合
  ▶ セットボタンを押して設定を決定した項目は、確定されます。
- メインスイッチを O (Off) にして、再度メインスイッチを | (On) にする。
  ▶ 設定は確定されます。



➡ セレクトボタンとセットボタンを押し続ける

⇨ セットボタンを押す

メーター 前ページの続き

1. 時計の合わせかた：

❶ メインスイッチを ❙(On) にする。

❷ 時の表示が点滅するまで、セレクトボタンとセットボタンを押し続ける。

❸ セレクトボタンを押し、時を修正する。



▶ セレクトボタンを押し続けると数字が早く進みます。

❹ セットボタンを押し、時を決定する。決定と同時に分が点滅する。



❺ セレクトボタンを押し、分を修正する。

▶ セレクトボタンを押し続けると数字が早く進みます。



❻ セットボタンを押し、分を決定する。決定と同時に HISS 表示灯の設定に切り換わる。

2. HISS 表示灯の設定：

HISS 表示灯の点滅の ON、OFF を切り換えることができます。

❶ セレクトボタンを押し、"On"（点滅する）または"OFF"（点滅しない）を選択する。



❷ セットボタンを押し、設定を決定する。決定と同時に通常表示に戻る。

警告灯／表示灯

警告灯／表示灯が点灯すべきときに点灯しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。



ABS 警告灯
メインスイッチを |(On) にすると点灯し、速度が約 10 km/h に達すると消灯
走行中に点灯／点滅したときは
➡P.100

水温警告灯
メインスイッチを |(On) にすると点灯し、数秒後に消灯
走行中またはアイドリング中に点灯したときは **➡P.98**

PGM-FI 警告灯
メインスイッチを |(On) にすると点灯し、数秒後に消灯
走行中またはアイドリング中に点灯したときは **➡P.99**

油圧警告灯
メインスイッチを |(On) にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯
走行中またはアイドリング中に点灯したときは **➡P.99**

次ページに続く

警告灯／表示灯 前ページの続き



トルクコントロール警告灯

- メインスイッチを ▎(On) にすると点灯し、速度が約 5 km/h に達すると消灯
  同時に、トルクコントロールが作動可能な状態になる
- トルクコントロール作動時に点滅

走行中に点灯したときは P.100

トルクコントロール OFF 警告灯

トルクコントロールを停止状態（OFF）にすると点灯

クルーズコントロールメイン表示灯

クルーズコントロールメインスイッチを押すと点灯

クルーズコントロール（自動定速走行装置）

P.40

SET クルーズコントロールセット表示灯

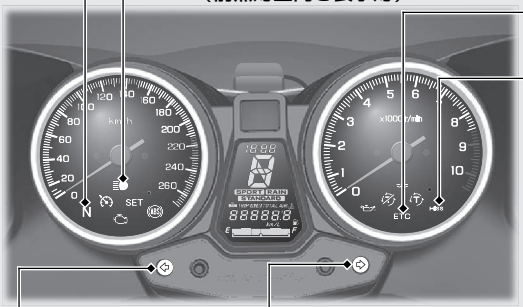
自動定速走行しているときに点灯

クルーズコントロール（自動定速走行装置）

P.40

N ニュートラル表示灯
トランスミッションがニュートラルの位置にあるときに点灯

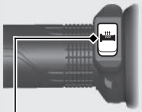
ハイビームパイロットランプ（前照灯上向き表示灯）



ETC 表示灯 P.55

HISS 表示灯 P.109

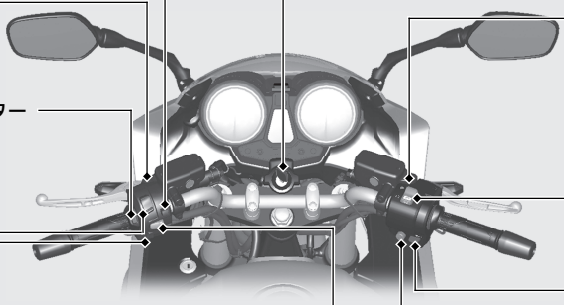
- メインスイッチを |(On) にすると一時的に点灯し、すぐに消灯
- メインスイッチを ○(Off) にすると 2 秒間隔で 24 時間点滅



ハンドルグリップヒーター表示灯
ハンドルグリップヒーターが ON のときに点灯

⇦ 方向指示器表示灯　**⇨ 方向指示器表示灯**

スイッチ



△ ハザード（非常駐車灯）スイッチ
・ メインスイッチが ❙(On) のときに使用できる

MODE ボタン ➡P.36

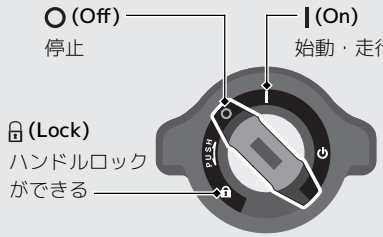
ハンドルグリップヒータースイッチ ➡P.53

⇦⇨ ウィンカー（方向指示器）スイッチ
▶ 解除はスイッチを押して行います。

ホーンスイッチ

ヘッドライト（前照灯）上下切り換えスイッチ / パッシングライトスイッチ （追い越し合図）
- ≣D（HI）：ヘッドライトが上向き
- ≣D（LO）：ヘッドライトが下向き
- ≣D**PASS**：ヘッドライトが下向きのときのみ作動

メインスイッチ
電気回路の ON ／ OFF、ハンドルロックに使用
▶ (Off) または (Lock) の位置で、キーを抜くことができます。



トルクコントロールスイッチ P.35
トルクコントロールの ON ／ OFF の切り換えをします。

エンジンストップスイッチ / スタータースイッチ
通常は、(Run) 位置にしておく
▶ 非常時に (Stop) 位置にすると、エンジンを停止できます

RES / + SET / - クルーズコントロールレバー
レバーを上下に動かし車速を設定したり、設定車速の調整を行います。 P.40

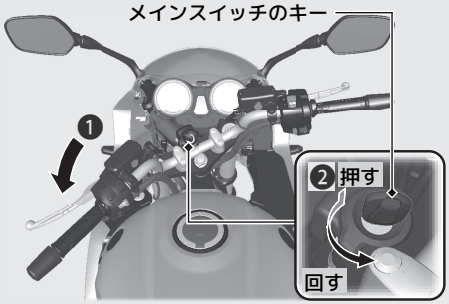
クルーズコントロールメインスイッチ
クルーズコントロールを ON ／ OFF するときに押します。 P.40

次ページに続く

スイッチ 前ページの続き

ハンドルロック

盗難予防のため、駐車するときは必ずハンドルロックをかけましょう。
U 字ロックなどの使用も推奨します。



かけかた

❶ ハンドルを左にいっぱいにきる。
❷ キーを押し込みながら、(Lock) の位置まで回す。
► ロックがかかりにくい場合は、ハンドルを左右に軽く動かしてください。
❸ キーを抜く。

外しかた

キーを押し込みながら、(Off) の位置まで回す。

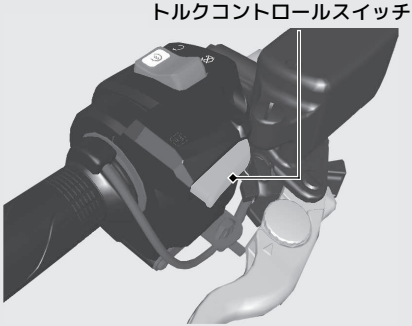
Honda セレクタブル トルク コントロール

トルクコントロール（エンジン出力の制御）の ON と OFF の切り換えができます。

- ► 運転中にトルクコントロールスイッチを操作しないでください。トルクコントロールの ON と OFF の切り換えは、車を停止してから行ってください。
- ► トルクコントロールが作動中（トルクコントロール警告灯が点滅中）は、トルクコントロール ON と OFF の切り換えはできません。
- ► メインスイッチを▌（On）にすると、トルクコントロールは自動的に ON になります。

トルクコントロール ON/OFF 切り換え

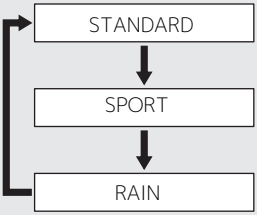
トルクコントロールスイッチを押し続けてトルクコントロールの ON と OFF を切り換える。



ライディングモード

ライディングモードの切り換えができます。
ライディングモードは以下の内容で構成されています。

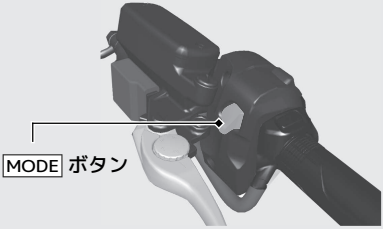
- ▶ STANDARD：運動性能と快適性がバランスした標準的な走行モード
- ▶ SPORT：レスポンス重視の力強い加速感が得られる走行モード
- ▶ RAIN：トルクを制御、穏やかな加減速特性とした走行モード



➡ MODE ボタンを押す

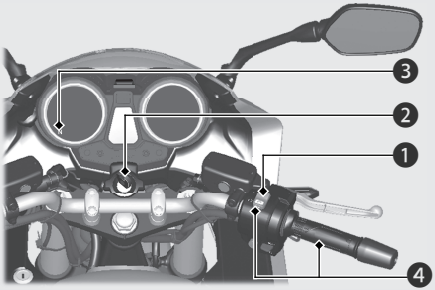
ライディングモードの切り換えかた

1. 車を停止する。
2. スロットルグリップを完全に閉じた状態で、MODE ボタンを押してライディングモードを選択する。



エンジン始動

始動するには、エンジン・冷却水の温度にかかわらず、次の手順で行ってください。



アドバイス

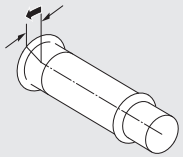
- スタータースイッチを押して 5 秒以内でエンジンがかからないときは、一度メインスイッチを〇(Off)にしてください。その後バッテリー電圧回復のため 10 秒ほど経ってからやり直してください。
- 無用な空ぶかしや長時間のアイドリングはエンジンやマフラー、触媒装置に悪影響を与えます。
- 万一転倒した場合は、一旦メインスイッチを〇(Off)にしてください。再度走行を行う際は、各部の損傷状態や、走行に支障が無いかを十分に確認してください。
- エンジンを始動するとき、スロットルを全開にしないでください。スロットルを全開にしてエンジンを始動しようとすると、PGM-FI ユニットは燃料供給を停止させます。したがってエンジンは始動しません。

次ページに続く

エンジン始動 前ページの続き

❶ エンジンストップスイッチが ◯ (Run) の位置にあるか確認する。
❷ メインスイッチを | (On) に回す。
❸ ギアをニュートラルにする。（表示灯点灯）
▶ ギアが入った状態では始動しません。ただし、サイドスタンドが格納されている状態でクラッチレバーを握れば始動します。
❹ スロットルグリップを閉じたまま、スタータースイッチを押す。
▶ もし、エンジンがかからない場合は、スロットルグリップをわずかに（遊びを除いて 3 mm 程度）回しながらスタータースイッチを使用してください。

遊びを除いて 3 mm 程度



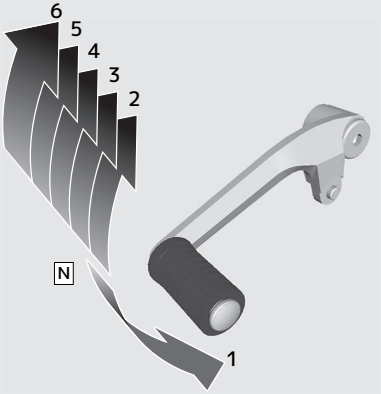
エンジンがかからないときは

次の方法を試してください。
① スロットルグリップを全開にし、スタータースイッチを 5 秒間押す。
② 通常手順（❶ ～ ❹）でエンジンをかける。
③ エンジンがかかり、エンジン回転が安定しない場合はスロットルグリップを少し開ける。
④ エンジンがかからないときは 10 秒間待ってから、①② の手順を繰り返す。

それでも始動できないときは ➔P.97

ギアチェンジ

この車のトランスミッションは、下 1 速、上 5 速シフトの 6 速リターン式です。速度に応じてギアを切り換えることが必要です。



走行前に、サイドスタンドが完全に納まっているか確認してください。
サイドスタンドを出したままギアチェンジを行うと、エンジンが停止します。

速度範囲
1 速 0 - 70 km/h
2 速 25 - 110 km/h
3 速 35 - 150 km/h
4 速 45 - 180 km/h
5 速 50 - 205 km/h
6 速 55 km/h 以上

シフトダウンについて

追い越しなど、強力な加速が必要なときはシフトダウンをします。高い速度でのシフトダウンは、尻振りなどの原因や、走行安定性を損なうほか、エンジンやトランスミッションに悪影響を与えます。次の速度内で行ってください。

シフトダウン可能限界速度
6 速→5 速 195 km/h 以下
5 速→4 速 170 km/h 以下
4 速→3 速 140 km/h 以下
3 速→2 速 100 km/h 以下
2 速→1 速 50 km/h 以下

クルーズコントロール（自動定速走行装置）

高速道路または、発進、停止の繰り返しの少ない自動車道路などを一定速度で運転できる装置です。
クルーズコントロールが設定可能なギアポジションと速度範囲は以下の通りです。法定速度を守って走行してください。

設定可能な速度範囲	50 ～ 160 km/h
設定可能なギアポジション	4 速 ～ 6 速

次のような道路では、安全のため、クルーズコントロールは使用しないでください。

- 混んでいて車間距離が十分にとれない道路
- 急なカーブ、急な下り坂のある道路
- 悪天候下の道路

登坂時および降坂時は条件によっては一定車速を保てない場合があります。

希望車速をセットし、定速走行する

1. 走行車速とギアポジションが設定可能な要件を満たしていることを確認する。
   ▶ 要件を満たしていないと車速の設定は行えません。
2. クルーズコントロールメインスイッチを押す。（クルーズコントロールメイン表示灯が点灯）
3. スロットルグリップを加減して希望の車速になったら、RES / + SET / - クルーズコントロールレバーを“SET / -”側に動かす。（クルーズコントロールセット表示灯が点灯）
   ▶ 現在の車速がセットされます。

自動定速走行をしない場合は、安全のためクルーズコントロールメインスイッチを解除（OFF）しておいてください。



次ページに続く

クルーズコントロール（自動定速走行装置） 前ページの続き

設定車速を変更する

設定車速を微調整するには

設定車速を上げるとき： RES / + SET / - クルーズコントロールレバーを"RES / +" 側に押して離す。

▶ そのときの車速に対して約 2 km/h 増速します。

設定車速を下げるとき： RES / + SET / - クルーズコントロールレバーを"SET / -"側に押して離す。

▶ そのときの車速に対して約 2 km/h 減速します。

設定可能な速度範囲以外の車速は設定できません。（上限速度または下限速度で止まります。）

P.40

設定車速を連続的に変更するには

- 設定車速を上げるとき： RES / + SET / - クルーズコントロールレバーを"RES / +" 側に押し続けます。
  設定車速の変化に応じて車両速度が自動で上がります。希望の車速に達したら、RES / + SET / -クルーズコントロールレバーを離します。
  RES / + SET / - クルーズコントロールレバーを"RES / +"側に押し続けると、設定可能な速度範囲の上限で止まります。
- 設定車速を下げるとき： RES / + SET / - クルーズコントロールレバーを"SET / -" 側に押し続けます。
  設定車速の変化に応じて車両速度が自動で下がります。希望の車速に達したら、RES / + SET / - クルーズコントロールレバーを離します。
  RES / + SET / - クルーズコントロールレバーを"SET / -" 側に押し続けると、設定可能な速度範囲の下限で止まります。

設定車速を手動で上げるには

❶ スロットルグリップで加速し希望の車速まで上げる。

❷ RES / + SET / - クルーズコントロールレバーを“SET / -”側に押して離す。

► 離したときの車速にセットされます。

クルーズコントロール中一時的に加速したいとき

❶ スロットルグリップを通常の加速時と同じように回して加速する。

❷ 設定車速に戻るには、ブレーキをかけずにスロットルグリップをもとの位置に戻す。

► 車両は、前回設定した車速で定速走行します。

クルーズコントロールを解除する

クルーズコントロールを解除するには

- クルーズコントロールメインスイッチを押します。（クルーズコントロールメイン表示灯が消灯し、設定車速が消去されます。）

クルーズコントロールを一時的に解除にするには

❶ 以下の操作を行うと、自動定速走行状態が一時的に解除される。（クルーズコントロールセット表示灯が一時的に消灯しますが、設定速度は記憶されています。）

- ブレーキレバーを握るか、ブレーキペダルを踏んだとき
- スロットルグリップを全閉位置よりさらに減速方向に回したとき
  クラッチレバーを握ったとき、またはシフトレバーを操作したとき

次ページに続く

クルーズコントロール（自動定速走行装置） 前ページの続き

❷ 解除前の設定車速に戻したいときは、以下の操作を行う。

- 車速が 50 km/h 以上の場合、 RES / + SET / - クルーズコントロールレバーを“RES / +”側に押して離します。
- 車速が 50 km/h 以下の場合、 RES / + SET / - 50 km/h 以上まで加速後クルーズコントロールレバーを“RES / +” 側に押して離します。

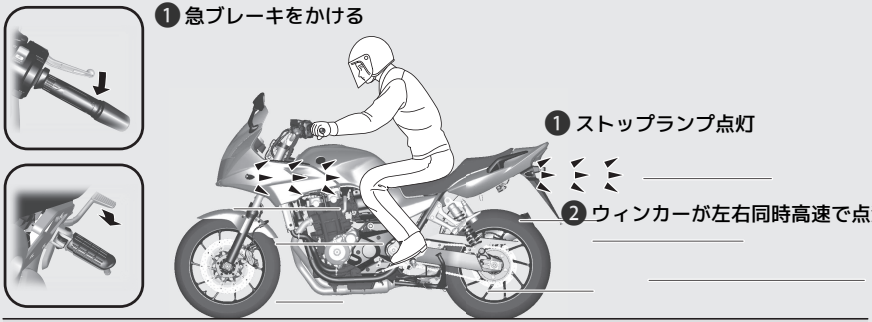
エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことをウィンカーが左右同時自動的に高速で点滅して後続車に知らせ、追突される可能性を低減するシステムです。50 km/h 以上で走行しているときに急ブレーキをかけると作動します。

エマージェンシーストップシグナルは、以下の状態になると作動が停止します。

- ブレーキレバーおよびペダルを離したとき
- ABS が停止したとき
- 急減速でなくなったとき
- ハザードスイッチを ON にしたとき

作動の仕組み

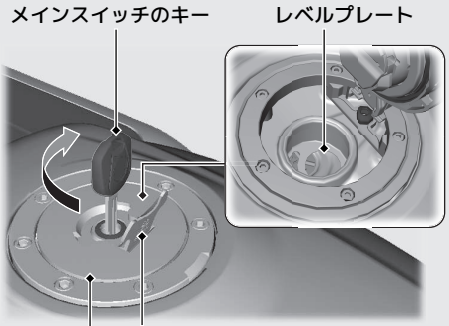


次ページに続く

エマージェンシーストップシグナル 前ページの続き

▶ エマージェンシーストップシグナルは、追突されるおそれを低減するシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。
▶ ハザードスイッチが ON のときは、エマージェンシーストップシグナルは作動しません。
▶ ABS が一定時間以上作動しないとき、システムが作動しない場合があります。

燃料補給



燃料がにじみ出ることがあるので、レベルプレート以上入れないでください。

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン
タンク容量：21 ℓ

燃料についての注意 P.9

燃料タンクキャップの開けかた

キーカバーを開け、メインスイッチのキーを差し込み右に回して、燃料タンクキャップを開ける。

燃料タンクキャップの閉じかた

1. 燃料タンクキャップを手で確実に押してロックする。
2. メインスイッチのキーを抜き、キーカバーを閉じる。
   ▶ 燃料タンクキャップがロックされないと、キーは抜けません。

⚠ 警告

ガソリンは燃えやすいため、ヤケドを負ったり、爆発して重大な傷害に至る可能性があります。

燃料補給およびガソリンの取り扱い P. 9

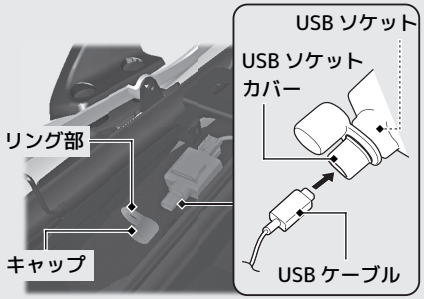
USB ソケット

USB ソケットは、シート下にあります。
接続する機器についてはご自身の責任でお使いください。

カバーを取り外してお使いください。
USB Type-C コネクターが使用できます。
定格 15 W (5 V、3 A) まで使用できます。
► USB ソケットは充電専用です。

USB 機器を接続するには

1. シートを取り外す。P.70
2. USB ソケットのキャップを取り外す。
3. 接続する機器の USB ケーブルを USB ソケットに接続する。
   ► キャップの紛失を防ぐため、キャップのリング部を USB ソケットカバーに通してから、USB ケーブルを USB ソケットに接続してください。



► バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態でお使いください。
► ソケットへの異物侵入を防ぐために、使用しないときはキャップを取り付けてください。
► 走行中に動いたり、振動による損傷を与えないように、機器をしっかりと固定してください。

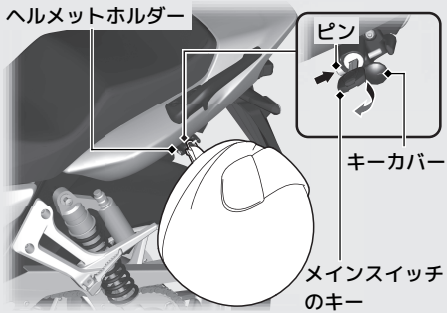
アドバイス

- 発熱する機器や定格以上の機器を使用しないでください。
- USB ソケットを損傷する可能性があるので、USB ソケットが濡れた状態、洗車中、またはその他の濡れた状態で使用しないでください。
- 機器のケーブルが挟まれたり絡まったりしないようにしてください。
- 機器のケーブルがハンドル操作や運転の妨げにならないようにしてください。

その他装備の使いかた

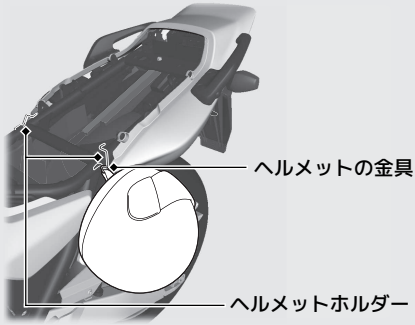
ヘルメットホルダー

ヘルメットホルダーはシートの左下側と、シート下にあります。ヘルメットホルダーは駐車時のみお使いください。



使い方

1. キーカバーを開け、キーを差し込み右に回してロックを解除する
2. ピンにヘルメットの金具をかけ、ピンを押してロックする。
3. キーを抜き、キーカバーを閉じる。



シートの取り外しかた P.70

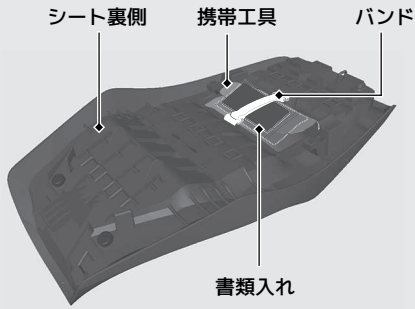
⚠ 警告

ヘルメットホルダーにヘルメットをつけたまま走行しないでください。

走行の妨げになり、重傷を負ったり死亡したりする事故が発生することがあります。

携帯工具／書類入れ

携帯工具と書類入れは、シート裏側にあります。



► 携帯工具と書類入れは、図のようにシートの裏側に収納し、バンドでしっかりと固定してください。

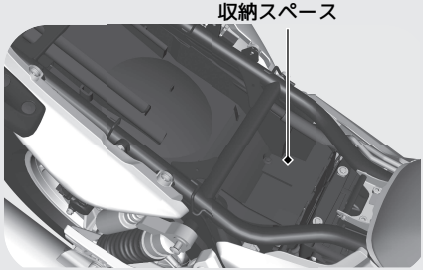
シートの取り外しかた P.70

収納スペース

収納スペースはシート下にあります。

収納スペース内への荷物の積載

► 積載重量上限：3.0 kg



► 貴重品やこわれ易いものは入れないでください。

► 熱の影響を受け易いものは入れないでください。

シートの取り外しかた P.70

次ページに続く

その他装備の使いかた 前ページの続き

左右ポケット

CB1300 SUPER BOL D'OR／
CB1300 SUPER BOL D'OR SP

左右ポケットの荷物の積載

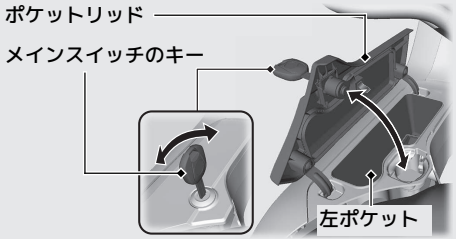
- ▶ 積載重量上限：各 0.5 kg
- ▶ 走行中にポケットリッドの開閉は、行わないでください。

左ポケットのロックの外しかた

メインスイッチのキーを差し込み、右に回してロックを解除し、キーを抜く。

左ポケットのロックのかけかた

メインスイッチのキーを差し込み、左に回してロックし、キーを抜く。



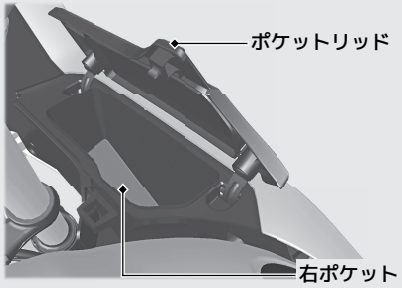
左右ポケットの開けかた

ポケットリッドを止まるところまで持ち上げる。

左右ポケットの閉じかた

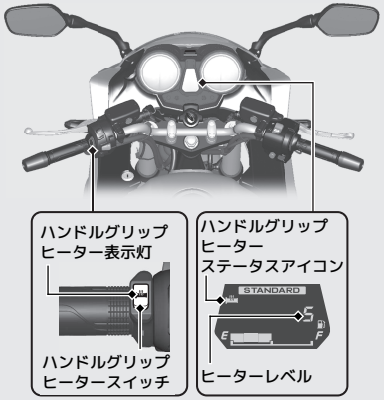
ポケットリッドがロックするまで完全に閉じる。ポケットリッドが確実にロックされているか確認する。

- ▶ 貴重品やこわれやすいものは入れないでください。
- ▶ 熱の影響を受け易いものは入れないでください。



ハンドルグリップヒーター

この車は、運転する際に手元を暖めるハンドルグリップヒーターを装備しています。ハンドルグリップヒーターを使用する際は、手袋を着用してください。



ハンドルグリップヒーター表示灯：

ハンドルグリップヒーター作動時に点灯する。ハンドルグリップヒーターを ON にしたとき、またはヒーターレベルを変更したときに、ヒーターレベルを表示灯の点滅回数で表示する。(例えばヒーターレベル 5 を選択した場合、表示灯は 5 回の点滅を 7 回繰り返します。)

ハンドルグリップヒーターステータスアイコン：

ハンドルグリップヒーター作動時に表示する。

ヒーターレベル：

ヒーターレベルを変更したときに数秒間表示する。

“E1”、“E2”、“E3” が点滅した時は

P.102



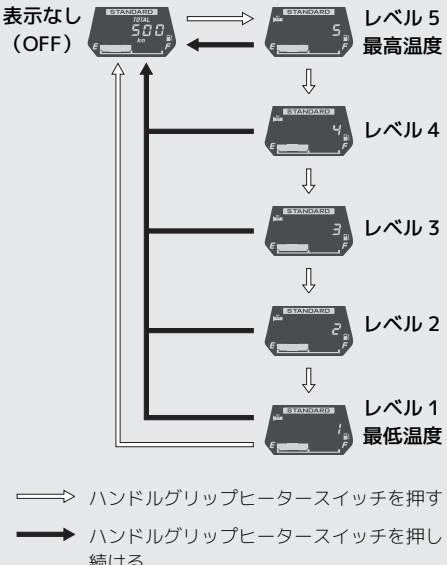
その他装備の使いかた 前ページの続き

ハンドルグリップヒーターの使いかた

❶ エンジンを始動する。
❷ ハンドルグリップヒータースイッチを押し、ハンドルグリップヒーターを ON にする。
❸ スイッチを押し、ヒーターレベルを選択する。
- ▶ ハンドルグリップヒーターの温度は外気温によって変化するので、暖かい日の高温度設定はさけてください。
- ▶ 走行中はハンドルグリップヒータースイッチの操作を行わないでください。

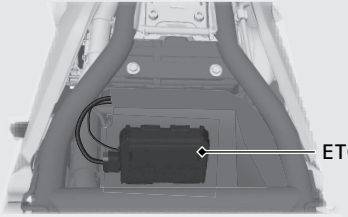
❹ OFF にするには、スイッチを押し表示なし（OFF）を選択する。
- ▶ スイッチを押し続けることでも OFF にできます。

アイドリング状態での長時間のご使用はさけてください。バッテリーあがりの原因となります。メインスイッチを ○(Off) にした場合、選択しているヒーターレベルは保持されます。
- ▶ ヒーターレベルの変更操作後、5 秒以内にメインスイッチを ○(Off) にした場合、ヒーターレベルは変更しません。



ETC 車載器/ETC 表示灯/ETC アンテナ

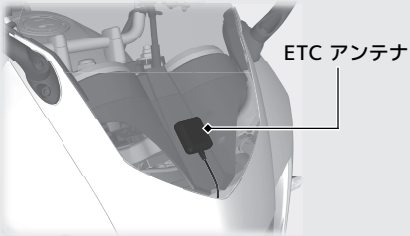
ETC 車載器の取り扱いについては、別冊の ETC 車載器取扱説明書をお読みください。



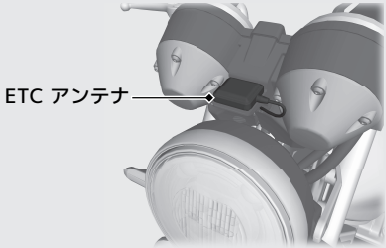
シートの取り外しかた P.70



CB1300 SUPER BOL D'OR／
CB1300 SUPER BOL D'OR SP



CB1300 SUPER FOUR／CB1300 SUPER FOUR SP



メンテナンス

メンテナンスを行う前に必ず「メンテナンスの基礎知識」をお読みください。
また、サービスデータについては「スペック」を参照ください。

メンテナンスの基礎知識 ..... P. 57
主要部品の脱着方法 ..... P. 69
クリップ ..... P. 69
左サイドカバー ..... P. 69
シート ..... P. 70
バッテリー ..... P. 71
ハンドルバーポジション ..... P. 74
エンジンオイル ..... P. 75
冷却水 ..... P. 77
ブレーキ ..... P. 78
ドライブチェーン ..... P. 80
クラッチ ..... P. 81
ブリーザードレーン ..... P. 82
スロットル ..... P. 83
その他の調整 ..... P. 84
レバーの距離調整 ..... P. 84
フロントサスペンションの調整 ..... P. 85
リアサスペンションの調整 ..... P. 90

メンテナンスの基礎知識

メンテナンスの重要性

お車をご使用の方の安全と車を快適にご使用いただくために、日常のお車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行っていただく日常点検と、1 年ごと（12 か月ごと）、2 年ごと（24 か月ごと）の定期点検整備が義務付けられています。安全快適にお乗りいただくために、必ず実施してください。

⚠ 警告

誤った点検整備や、不適当な整備、未修理は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

- 点検整備は、取扱説明書・メンテナンスノートに記載された点検方法・要領を守り、必ず実施してください。
- 異状箇所は乗車前に修理してください。

安全なメンテナンスのために

メンテナンスにあたっては、次のことに注意してください。

- エンジンを停止し、キーを抜いた状態で行う
- 平坦地で足場のしっかりとした場所で行う
- エンジン、マフラー、ブレーキなど高温になる部分はヤケドのおそれがあるので、冷えるまで触れない
- エンジンを始動して作業をする場合は、換気を十分に行う

日常点検

安全快適にご使用いただくために法令に従って、日常のお車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検です。
点検時期の目安としては、長距離走行や洗車時、給油時などに実施し、その結果をメンテナンスレコードに記入してください。
異音や異状を感じたときは、直ちに Honda 販売店にご相談ください。

次ページに続く

日常点検項目

この車には下記の日常点検項目が適用されます。

- **ブレーキ**
  - レバーの遊び（油圧式）
  - ペダルの遊び（油圧式）
  - ブレーキの効き具合
  - ブレーキ液の量
- **タイヤ**
  - 空気圧
  - 亀裂、損傷
  - 異状な摩耗
  - 溝の深さ
- **エンジン**
  - 冷却水の量
  - オイルの量
  - かかり具合、異音
  - 低速、加速の状態
- **灯火装置および方向指示器**
- **運行において異状が認められた箇所**
- **ドライブチェーンの緩み（Honda 指定）**

定期点検

安全快適にお車をご使用いただくために、定期点検を必ず実施してください。

また、これらの他にも使い始めてから 1 か月目（または、1,000 km 時）に行う点検、Honda が指定する点検整備項目もあります。

道路運送車両法で定められた点検

道路運送車両法で定められた点検には、以下の種類があります。

- 日常点検
- 1 年ごと（12 か月ごと）に行う点検
- 2 年ごと（24 か月ごと）に行う点検

小型二輪車［250 cm^3（cc）を超えるもの］は、1 回目を登録日から 3 年後に、2 回目以降は 2 年ごとに、国で定める継続検査が必要です。

ご自身で点検を実施する場合

安全のため、ご自分の知識と技量に合わせた範囲内で行ってください。難しいと思われる内容については、Honda 販売店にご相談ください。
点検結果は、メンテナンスノートの定期点検整備記録簿に記入し、大切に保存、携行してください。

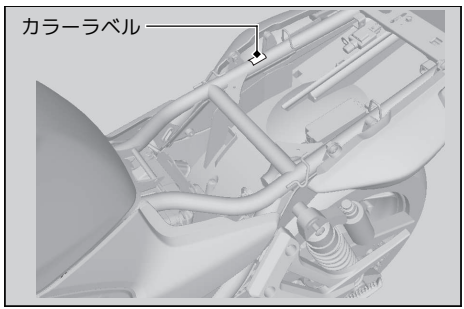
1 か月目点検について

新車から 1 か月目（または、1,000 km 時）は、特に初期の点検整備が車の寿命に影響することを重視し、点検を無料でお取り扱いいたします。お買いあげの Honda 販売店で行ってください。他の販売店にてお受けになると有料となる場合があります。また、オイル代、消耗部品代および交換工賃等は実費をいただきます。詳細については、メンテナンスノートをご覧ください。

交換部品について

整備の際は、Honda 純正部品を使用してください。色物部品をご注文のときは、カラーラベルに記載されているモデル名、カラーおよびコードをお知らせください。

カラーラベルは、シートを取り外すと確認できます。P. 70



⚠ 警告

Honda 純正部品以外のアクセサリー・部品の使用や、不正な改造は思わぬ事故の原因となり、重傷を負ったり、死亡したりすることがあります。

Honda 純正部品を使用してください。

バッテリー

この車は、メンテナンスフリータイプのバッテリーを使用しており、バッテリー液の点検、補給は必要ありません。バッテリーのターミナル部に汚れや腐食がある場合のみ清掃してください。
また、密閉式の液口キャップは絶対に取り外さないでください。バッテリー充電時も液口キャップを取り外す必要はありません。

アドバイス
バッテリーには寿命があります。交換時期については、Honda 販売店にご相談ください。交換する場合は、必ず同型式のメンテナンスフリーバッテリーを使用してください。

万一の場合の応急処置

以下のようなときは、応急処置したあと、直ちに医師の診察を受けてください。

- 電解液が眼に付着したとき
  ▶ コップなどに入れた水で、15 分以上洗浄してください。加圧された水での洗浄は、眼を痛めるおそれがあります。
- 電解液が皮膚に付着したとき
  ▶ 電解液のついた服を脱ぎ、皮膚を多量の水で洗浄してください。
- 電解液を飲み込んだとき
  ▶ 水、または牛乳を飲んでください。

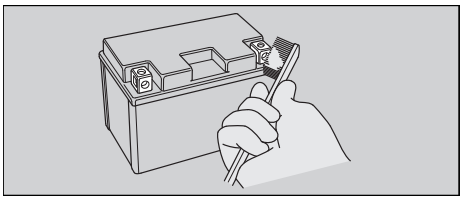
⚠ 警告

バッテリーには、希硫酸が電解液として含まれています。希硫酸は腐食性が強く、眼や皮膚に付着すると重いヤケドを負います。

- バッテリーの近くで作業するときは、保護メガネと保護服を着用
- バッテリーを子供の手の届く所に置かない
- ショートによる火花やたばこなどの火気に十分注意する

ターミナル部の清掃

1. バッテリーを取り外す。 P. 71
2. ターミナル部が腐食して白い粉が付いている場合は、ぬるま湯を注いで拭く。
3. ターミナル部の腐食が著しいときは、ワイヤーブラシまたはサンドペーパーで磨く。



4. 清掃後、バッテリーを取り付ける。

電装部品やアクセサリーを取り付けるときは純正アクセサリーをご使用ください。それ以外のものを使用するとバッテリーあがりや故障の原因となります。

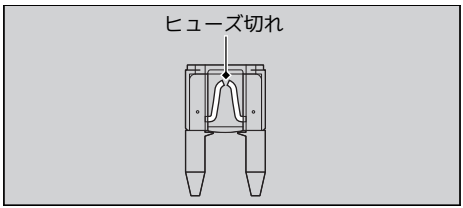
ヒューズ

この車の電気回路は、ヒューズで保護されています。電装部品が動作しないときは、ヒューズを調べ、必要に応じて交換してください。 P. 103

ヒューズの点検・交換

メインスイッチを○（Off）にして、ヒューズを取り外して点検します。切れている場合は、指定されている容量のヒューズと交換してください。

ヒューズの容量はスペックページをご確認ください。 P. 120



アドバイス

指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱焼損の原因になるので絶対に使用しないでください。

次ページに続く

交換してもすぐにヒューズが切れる場合は、ヒューズの劣化以外の原因が考えられます。 Honda 販売店にご相談ください。

エンジンオイル（トランスミッションオイル）

エンジンオイルは走行距離や走行状況、時間の経過とともに劣化したり減っていきます。そのため、定期交換時期に行う交換だけではなく日常点検によるオイル点検・補給が必要です。汚れたり古くなったオイルはエンジンに悪影響を与えますので早めに交換してください。

オイル交換は Honda 販売店で行うことを推奨します。交換時期はスペックページをご確認ください。➔ P. 119

エンジンオイル（トランスミッションオイル）の選びかた

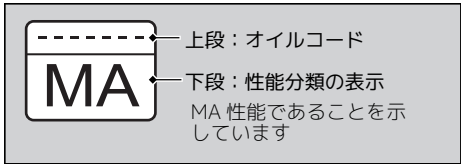
推奨エンジンオイル(トランスミッションオイル):
Honda 純正　ウルトラ G1

相当品をご使用の場合は、オイル容器の表示を確認し、下記の全ての規格を満たしているオイルをお選びください。全ての規格を満たしている場合でも特性が異なりこの車に適合しない場合があります。

- JASO T 903 規格※1：MA
- SAE 規格※2：10W-30
- API 分類※3：SG・SH・SJ・SL 級相当

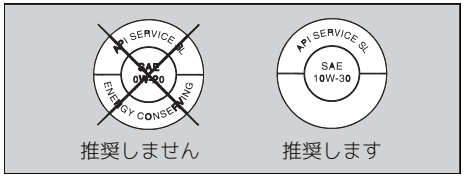
また、必要以上に摩擦を低減するオイル添加剤はエンジンやクラッチの性能や寿命に悪影響を与える場合がありますので使用しないでください。

※1: JASO T 903 規格は、二輪車用 4 サイクルエンジンオイルの性能を分類する規格です。適合し届け出されたオイルの容器には、次の表示があります。



※2: SAE 規格は、オイルの粘度を定めた規格です。

※3: API 分類は、エンジンオイルのグレードに関する分類です。API マークの入っている相当品を使用する場合、下記のものをご使用ください。



推奨しません　推奨します

ブレーキ液（クラッチ液）

銘柄の異なるブレーキ液を使用しないでください。ブレーキ液が変質したりブレーキ装置の故障の原因となることがあります。

アドバイス

ブレーキ液は、プラスチックや塗装面を損傷します。漏れたブレーキ液は直ちに拭き取ってください。

指定ブレーキ液：

Honda 純正ブレーキフルード
DOT4

冷却水

Honda 純正ウルトララジエーター液を、蒸留水または水道水で下記濃度に薄めてお使いください。

標準濃度：50%
濃度による不凍温度：
30% の場合：-16°C まで
50% の場合：-37°C まで

アドバイス

指定以外のラジエーター液や不適当な水（井戸水や天然水）を使うと、サビなどの原因となります。

エアクリーナー

この車には、ろ紙にオイルを含ませたビスカス式のエアクリーナーエレメントが装備されており点検・清掃は不要ですが定期的な交換が必要です。
エアクリーナーエレメントの交換は、Honda 販売店にご相談ください。交換時期はスペックページをご確認ください。P. 119

ドライブチェーン

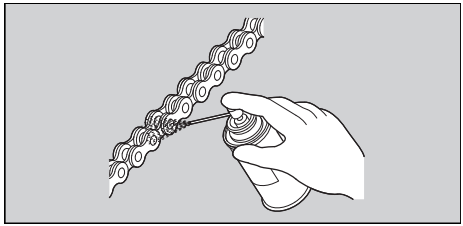
チェーンは、定期的に点検および給油を行ってください。また悪路走行が多い場合や連続高速走行、急加速を繰り返すような運転を行う場合には、頻繁に点検を行ってください。P. 80

チェーンの異常（回転が滑らかでない、異音、固着、ローラーやOーリングの損傷）は、Honda 販売店にご相談ください。

ドライブチェーンの清掃と給油

緩み（たるみ）の点検後、後輪をゆっくりと回しながら、チェーンやスプロケットに付着した泥、汚れを中性洗剤またはチェーンクリーナーを使用し、乾いた布などで落とします。汚れがひどい場合、やわらかいブラシを使用してください。汚れを落としたあとは、十分に乾燥させ、推奨オイルをチェーンローラーの両側に給油してください。

推奨オイル：
Honda 純正チェーンオイルまたは相当品



チェーンは、ゴムのシールを使用しているため、スチーム / 高圧洗浄、ワイヤーブラシ、ガソリンやベンゼンなどの揮発性溶剤、研磨材が入っている洗剤は使用しないでください。

シール（O-リング）チェーン専用の、クリーナーや潤滑油（チェーンスプレーなど）以外は使用しないでください。

オイルがブレーキやタイヤに付着しないようにしてください。チェーンにオイルをつけ過ぎると、衣服や車に飛び散り汚しますので、オイルをつけ過ぎないよう注意してください。

ブリーザードレーン

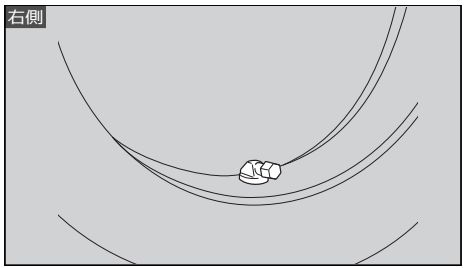
エンジンの性能を維持するためには、定期的なブリーザードレーンの清掃が必要です。P. 82

タイヤ

空気圧の点検

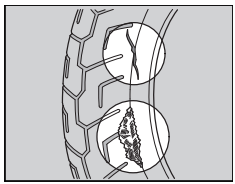
タイヤの空気圧は徐々に低下します。また、タイヤによっては空気圧不足が見た目ではわかりづらいため、少なくとも 1 か月ごとにタイヤゲージを使用して空気圧を点検してください。
タイヤは、走行後は温まり空気圧が高くなることがありますので、必ず冷えた状態で点検してください。

エアーバルブの向きがかわっていても、もとに戻そうとせず、Honda 販売店にご相談ください。



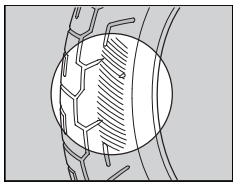
次ページに続く

亀裂と損傷の点検



タイヤの全周に、亀裂や損傷、ひび割れおよび釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検します。道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きな凹みや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

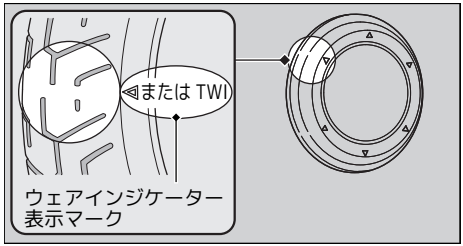
異状な摩耗の点検



タイヤの接地面が異状に摩耗していないかを点検します。

溝の深さの点検

ウェアインジケーター（スリップサイン）により溝の深さを確認します。サインが現れたときは、直ちに交換してください。また、安全走行のため、トレッド中央部の溝の深さが最小残溝量になったときは交換してください。



⚠ 警告

過度にすり減ったタイヤの使用や、不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

取扱説明書に記載されたタイヤの空気圧を守り、規定の数値を超えてすり減ったタイヤは交換してください。

次ページに続く

タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用してください。指定以外のタイヤは、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがありますので使用しないでください。

タイヤの交換は、Honda 販売店にご相談ください。指定タイヤ、空気圧、最小残溝量（溝の深さ）はスペックページをご確認ください。➔P. 119

- ホイールバランス調整のためにバランスウェイトを貼り付けるときは、Honda 純正部品、又は同等品のバランスウェイトを使用してください。

⚠ 警告

指定以外のタイヤを取り付けると、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがあります。また、そのことが原因で転倒事故などを起こし、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

タイヤ交換時には、必ず取扱説明書に記載された指定タイヤを取り付けてください。

クリップ

取り外し

1. 中央部のピンを押しこんでロックを解除する。
2. クリップを引き抜く。



取り付け

1. ピンの下端を押し戻して取り付け状態にする。

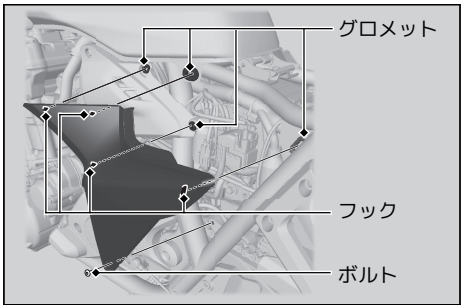


2. クリップを穴に差し込む。
3. ピンを軽く押してロックする。

左サイドカバー

取り外し

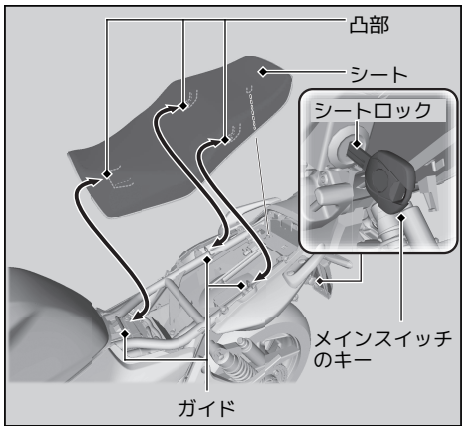
1. シートを取り外す。P. 70
2. ボルトを取り外す。
3. 左サイドカバーを引き、フックをグロメットから外す。



取り付け

取り付けは、取り外しの逆の手順で行います。

シート



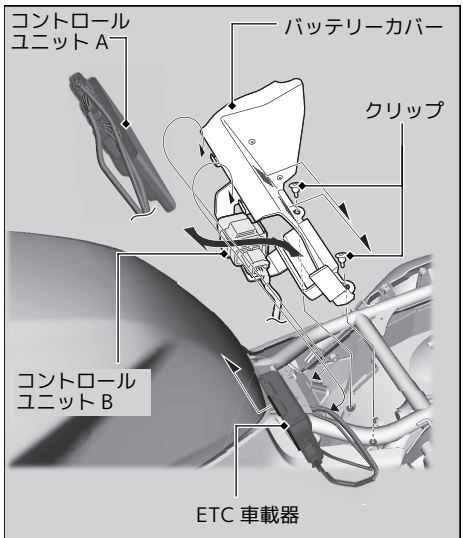
取り外し

1. メインスイッチのキーをシートロックに差し込み、右に回してシートロックを解除する。
2. シートを後方へずらしながら持ち上げて取り外す。

取り付け

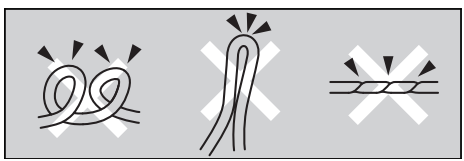
1. フレームのガイドにシートの凸部を差し込む。
2. シートを前方に押しながら、シートの後方を押し下げ、ロックする。
   ▶ シートを軽く持ち上げて、ロックがかかっていることを確認してください。
3. メインスイッチのキーを抜く。
   ▶ メインスイッチのキーをシート下に置き忘れた状態でシートを取り付けると、自動的にロックされ、キーを取り出せなくなりますのでご注意ください。

バッテリー



バッテリーカバーに ETC 車載器が取り付けられています。ETC 車載器コード、ETC アンテナコードが断線し、ETC の動作不良の原因となるため、ETC 車載器、ETC 車載器コード、ETC アンテナコードの取り扱いには、以下の内容を必ず守ってください。

▶ 強く曲げたりしないようにしてください。
▶ 引っ張ったり、ねじったりしないようにしてください。

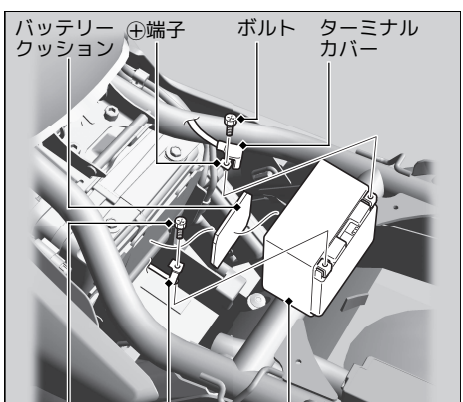


次ページに続く

取り外し

メインスイッチが〇（Off）になっていることを確認してください。

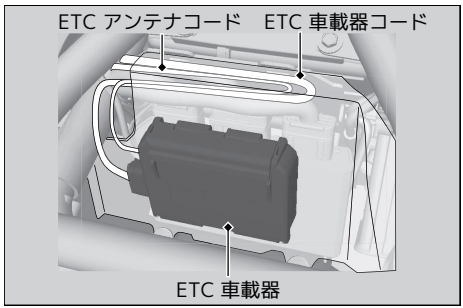
1. シートを取り外す。P. 70
2. ETC 車載器をバッテリーカバーからはがす。
   ▶ コードを損傷させないように、ETC 車載器の取り外しに注意してください。
3. クリップを取り外す。P. 69
4. バッテリーカバーをずらしてコントロールユニット A をバッテリーカバーから取り外す。
   ▶ コントロールユニット A およびコントローユルニット B のコードを損傷させないように注意してください。



5. ⊖端子のボルトを外し、⊖コードを外す。
6. ターミナルカバーをめくり、⊕端子のボルトを外し、⊕コードを外す。
7. 端子のナットを落とさないよう、バッテリーとバッテリークッションを取り出す。

取り付け

取り付けは、取り外しの逆の手順で行います。
バッテリーコードは、必ず先に⊕側より取り付けてください。また、ターミナル部にゆるみが生じないように、確実にボルトを締め付けてください。
ETC 車載器コード、ETC アンテナコードは図のように正しい位置に取り付けてください。



バッテリーコードを再び取り付けたときに、時計の表示がずれている場合は合わせ直してください。 ➔P. 28

バッテリーの取り扱いについてはメンテナンスの基礎知識をご確認ください。 ➔P. 60

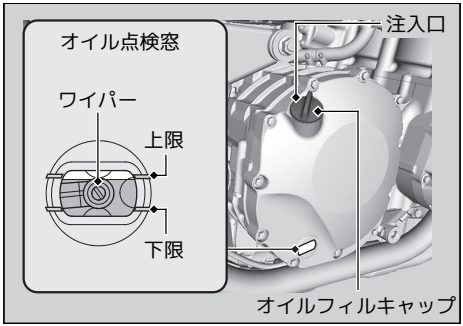
ハンドルバーポジション

CB1300 SUPER FOUR／CB1300 SUPER FOUR SP

ライダーの好みに応じて、ハンドル位置を変更することができます。ハンドル位置を変更する場合は Honda 販売店にご相談ください。

オイルの量の点検

1. エンジンが冷えている場合は、3 ～ 5 分ほどアイドリングさせる。
2. メインスイッチを○（Off）にしてエンジンを止め、2 ～ 3 分間待つ。
3. 足場のしっかりとした平坦地にメインスタンドを立てる。
4. オイルレベルが点検窓の上限と下限の間にあることを確認する。
   ▶ オイル点検窓が汚れている場合は、ワイパーを回転させ汚れを取ってください。



オイルの補給

エンジンオイルが不足している、またはオイルレベルが下限に近いときは、推奨エンジンオイルを上限まで補給してください。 ➡P. 62, ➡P. 119

1. エンジンオイルの点検後、オイルフィルキャップを取り外し、オイルレベル点検窓で確認（➡P. 75）しながら、オイルを注入口より補給する。

- ▶ 上限を超えて補給しないでください。
- ▶ ゴミが入らないようにしてください。
- ▶ オイルをこぼしたときは完全に拭き取ってください。

2. オイルフィルキャップを確実に取り付ける。

アドバイス

オイルは規定量より多くても少なくても、エンジンに悪影響を与えます。また銘柄やグレードの異なるオイルを混用しないでください。

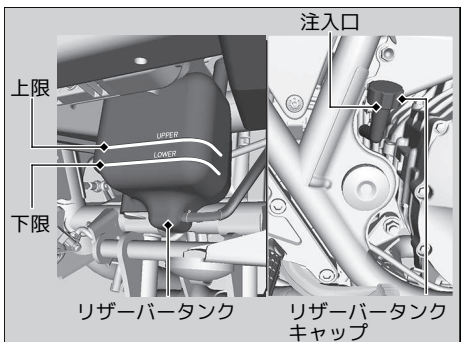
推奨エンジンオイルやオイルの選びかたについてはメンテナンスの基礎知識をご確認ください。 ➡P. 62

オイル漏れの点検

エンジンなどから、オイルが漏れていないことを確認します。

冷却水の量の点検

1. 足場のしっかりとした平坦地にメインスタンドを立てる。
2. 冷却水がリザーバータンクの上限（UPPER）と下限（LOWER）の間にあることを確認する。



冷却水の減り具合が著しいとき、またはリザーバータンクに冷却水がない場合は水漏れが考えられます。Honda 販売店にご相談ください。

冷却水の補給

冷却水の補給はリザーバータンクキャップから行い、ラジエーターキャップは外さないでください。

1. リザーバータンクキャップを取り外す。
2. 平坦地で車体を垂直にし、冷却水（P. 63）のレベルを確認（P. 77）しながら補給する。
   - ▶ 上限（UPPER）を超えて補給しないでください。
   - ▶ ゴミが入らないようにしてください。
3. リザーバータンクキャップを確実に取り付ける。

⚠ 警告

エンジンが熱いときにラジエーターキャップを外すと冷却水が噴き出し、重いヤケドを負います。

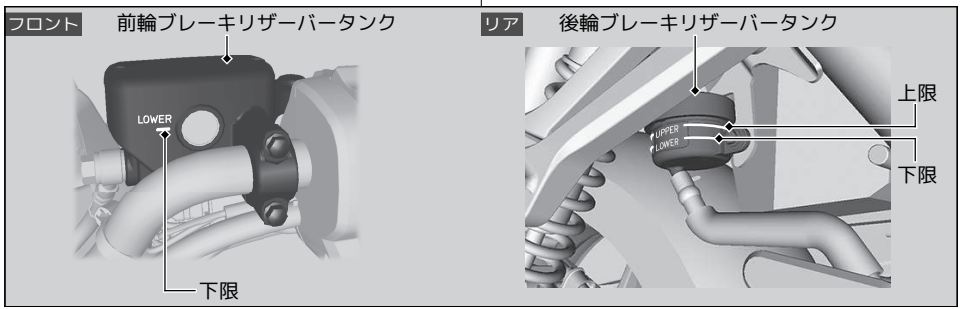
ラジエーターキャップを外す前には、必ずエンジン、ラジエーターが冷えていることを確認してください。

ブレーキ液の点検

1. 足場のしっかりとした平坦地にメインスタンドを立てる。
2. フロント リザーバータンク上面を水平にし、液面が点検窓の下限（LOWER）以上にあることを確認する。
   リア リザーバータンク上面を水平にし、液面が上限（UPPER）と下限（LOWER）の間にあることを確認する。

▶ 液面が下限（LOWER）以下の場合やブレーキレバーとブレーキペダルの遊びが大きいときは、ブレーキパッドの摩耗の点検を行ってください。

パッドが摩耗していない場合、あるいは液漏れやホースに損傷があるときは Honda 販売店にご相談ください。

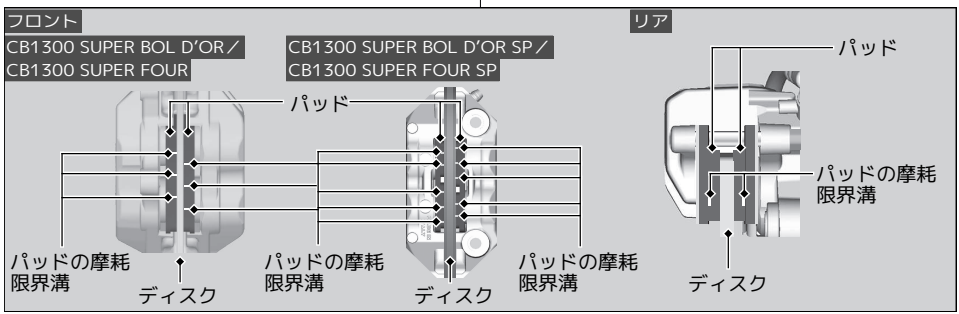


ブレーキパッドの摩耗の点検

フロント
パッドの摩耗限界溝が無くなったら、パッドの摩耗限界です。
リア
パッドの摩耗限界溝がブレーキディスクの側面に達したら、パッドの摩耗限界です。

摩耗限界に達したら左右同時にパッドを交換してください。
ブレーキパッドの交換は、Honda 販売店にご相談ください。

1. フロント ブレーキキャリパーの下側からのぞいて点検します。
   ▶ 点検は片側だけでなく、左右のキャリパーで行ってください。
2. リア 車の右後側からキャリパーをのぞいて点検します。



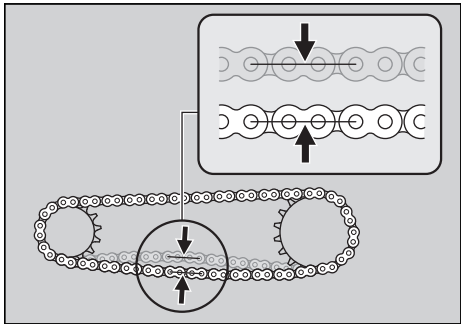
緩み（たるみ）の点検

チェーンの緩み（たるみ）が適正かどうか、滑らかに回転するか点検します。緩み（たるみ）が規定の範囲を超えている場合、回転が滑らかでないときは Honda 販売店にご相談ください。

1. トランスミッションをニュートラルに入れて、エンジンを停止する。
2. 足場のしっかりとした平坦地にメインスタンドを立てる。
3. 前後のスプロケットの中央を手で上下に動かし、チェーンの緩みが規定の範囲内にあることを確認する。

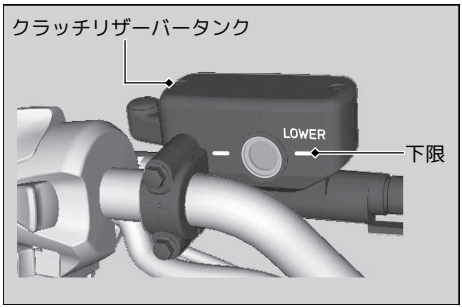
ドライブチェーンの緩み（たるみ）：
25 - 35 mm

▶ 緩みが 50 mm 以上の場合、絶対に走行しないでください。



4. 後輪を手でゆっくり回しながらチェーンが滑らかに回転することを確認する。
   ▶ チェーンの回転が滑らかでない場合や、異音が出る場合は清掃と給油を行ってください。 P. 64

クラッチ液の点検



1. 足場のしっかりとした平坦地にメインスタンドを立てる。
2. リザーバータンク上面を水平にし、クラッチ液の液面が点検窓の下限（LOWER）以上にあることを確認する。

液面が低い場合、あるいは液漏れやホースに損傷があるときは Honda 販売店にご相談ください。

ブリーザードレーンの清掃（Honda 指定 1 年点検整備項目）

エンジンの性能を維持するためには、定期的なブリーザードレーンの清掃が必要です。
エンジン停止直後のメンテナンスは、エンジン本体、マフラーやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

清掃のしかた

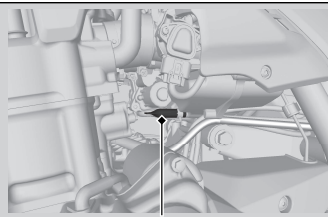
上側

1. ブリーザードレーンの下に受け皿などを用意する。
2. ブリーザードレーンを外し、ブリーザドレーン内の堆積物を取り除く。
3. ブリーザードレーンを確実に取り付ける。

下側

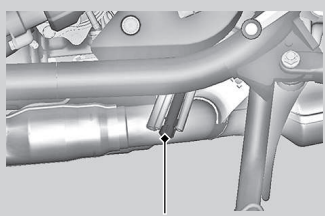
1. ブリーザードレーンプラグの下に受け皿などを用意する。
2. ブリーザードレーンプラグを外し、ブリーザードレーン内の堆積物を取り除く。
3. ブリーザードレーンプラグを確実に取り付ける。

上側



ブリーザードレーン

下側



ブリーザードレーンプラグ

スロットルの点検

メインスイッチを〇（Off）にした状態でスロットルを作動させ、スムーズに動くかどうか点検します。異状を感じた場合は Honda 販売店にご相談ください。

レバーの距離調整

クラッチレバーとブレーキレバーのそれぞれに、レバーとハンドルグリップの間隔を調整できるアジャスターが装備されています。

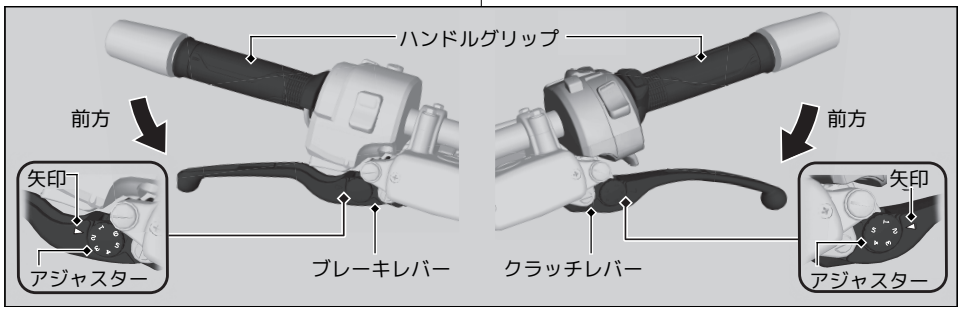
調整方法

レバーを前方に押しながらアジャスターを回し、アジャスターの数字と矢印が合う位置で段階的に調整します。

調整後は、走行する前にクラッチ、ブレーキがそれぞれ正常に作動することを確認してください。

アドバイス

調整範囲を超えてアジャスターを回さないでください。

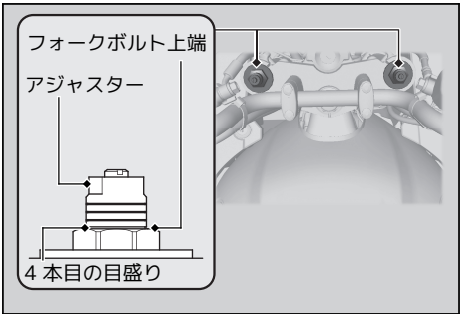


フロントサスペンションの調整

CB1300 SUPER BOL D'OR／CB1300 SUPER FOUR

スプリングの強さ

体重や路面の状態などに応じ、スプリングの強さを調整できます。
スプリングの強さは、アジャスターを右（時計回り）に回すと強くなり、左（反時計回り）に回すと弱くなります。標準は、アジャスターの上から 4 本目の目盛りがフォークボルトの上端に合う位置です。

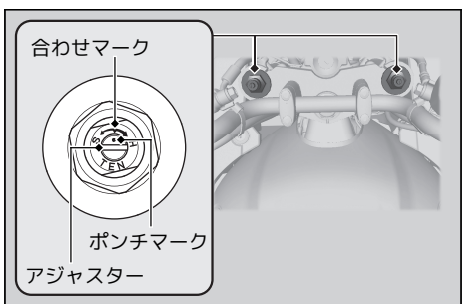


アドバイス
アジャスターは、無理に回さないでください。
左右の強さは必ず同じにしてください。

次ページに続く

伸び側減衰力

体重や路面の状態に応じ、伸び側減衰力を調整できます。
減衰力の強さは、アジャスターを H 側（時計回り）に回すと強くなり、S 側（反時計回り）に回すと弱くなります。標準は、アジャスターを H 側に止まるまで回したあと、S 側に 1.5 回転戻し付近でポンチマークと合わせマークが合う位置です。



アドバイス

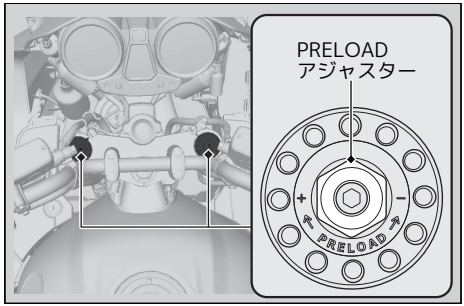
アジャスターは、無理に回さないでください。
左右の強さは必ず同じにしてください。

CB1300 SUPER BOL D'OR SP／
CB1300 SUPER FOUR SP

スプリングの強さ

体重や路面の状態などに応じ、スプリングの強さを調整できます。
スプリングの強さは、PRELOAD アジャスターを回して調整します。PRELOAD アジャスターを＋側（時計回り）に回すと強くなり、－側（反時計回り）に回すと弱くなります。標準は、PRELOAD アジャスターを－側に軽く止まるまで回したあと、＋側に 8 回転戻した位置です。

▶ 調整の際は、アジャスターを傷つけないよう、注意してください。



アドバイス
アジャスターは、無理に回さないでください。
左右の強さは必ず同じにしてください。

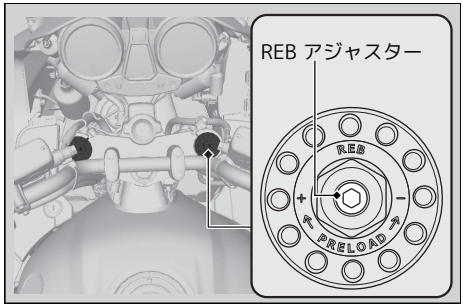
次ページに続く

伸び側減衰力

体重や路面の状態に応じ、伸び側減衰力を調整できます。

減衰力の強さは、フロントサスペンションの右側にある REB アジャスターを回して調整します。REB アジャスターを＋側（時計回り）に回すと強くなり、－側（反時計回り）に回すと弱くなります。REB アジャスターを＋側に軽く止まるまで回したあと、－側に戻し、最初のクリックする位置が 0 段（最強位置）です。標準は、REB アジャスターを 0 段から－側に 10 クリック戻した位置（10 段目）です。

▶ 調整の際は、アジャスターを傷つけないよう、注意してください。



アドバイス

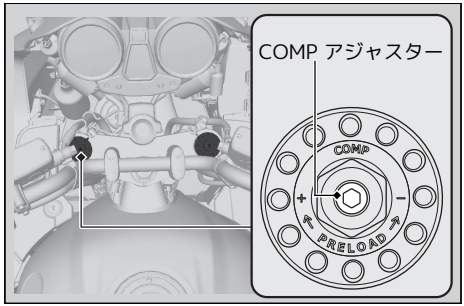
アジャスターは、無理に回さないでください。

縮み側減衰力

体重や路面の状態に応じ、縮み側減衰力を調整できます。

減衰力の強さは、フロントサスペンションの左側にある COMP アジャスターを回して調整します。COMP アジャスターを＋側（時計回り）に回すと強くなり、－側（反時計回り）に回すと弱くなります。COMP アジャスターを＋側に軽く止まるまで回したあと、－側に戻し、最初のクリックする位置が 0 段（最強位置）です。標準は、COMP アジャスターを 0 段から－側に 10 クリック戻した位置（10 段目）です。

▶ 調整の際は、アジャスターを傷つけないよう、注意してください。



アドバイス

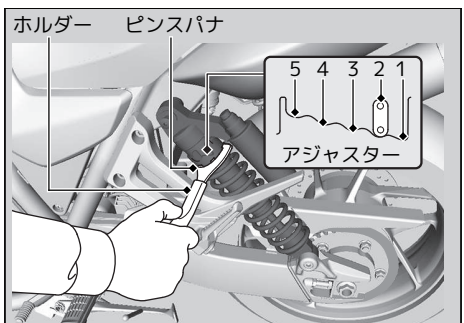
アジャスターは、無理に回さないでください。

リアサスペンションの調整

CB1300 SUPER BOL D'OR／CB1300 SUPER FOUR

スプリングの強さ

体重や路面の状態に応じ、スプリングの強さを調整できます。
調整にはピンスパナとホルダーを使いアジャスターを回して行います。2 が標準の強さで、1 は弱く、3 ～ 5 と強くなります。

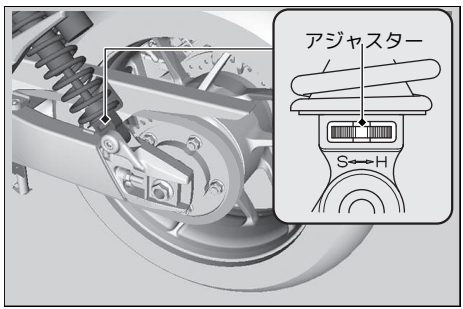


アドバイス
アジャスターを直接 1 から 5 または 5 から 1 に無理に回すとリアクッションが破損します。

アドバイス
アジャスターは、無理に回さないでください。
左右の強さは必ず同じにしてください。

伸び側減衰力

体重や路面の状態に応じ、伸び側減衰力を調整できます。減衰力の強さは、アジャスターを H 側（右側）に回すと強くなり、S 側（左側）に回すと弱くなります。標準は、アジャスターを H 側に軽く止まるまで回したあと、S 側に 10 クリック戻した位置です。

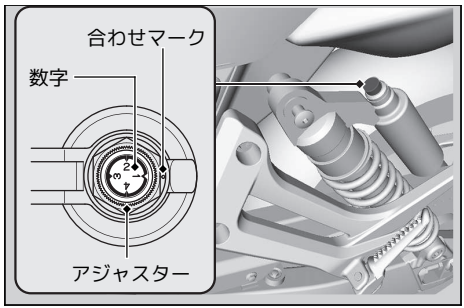


アドバイス

アジャスターは、無理に回さないでください。
左右の強さは必ず同じにしてください。

縮み側減衰力

体重や路面の状態に応じ、縮み側減衰力を調整できます。減衰力の強さは、アジャスターを回して、数字と合わせマークを合わせて調整します。1 が標準の強さで、2～4 と強くなります。



アドバイス

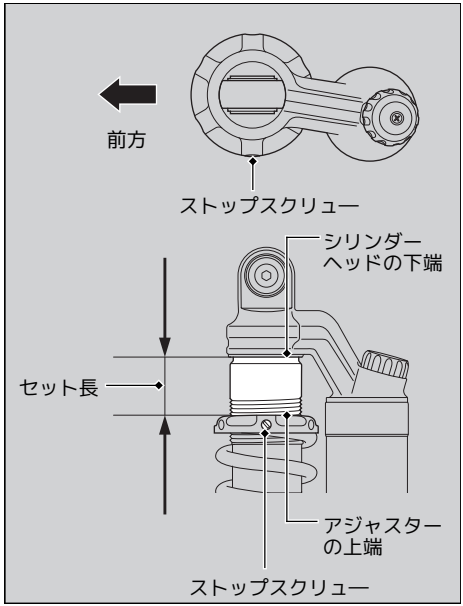
アジャスターは、無理に回さないでください。
左右の強さは必ず同じにしてください。

次ページに続く

CB1300 SUPER BOL D'OR SP／
CB1300 SUPER FOUR SP

スプリングの強さ

体重や路面の状態に応じ、スプリングの強さを調整できます。
スプリングの強さはセット長(シリンダーヘッドの下端からアジャスター上端の長さ)で調整します。セット長を長くすると強くなり、短くすると弱くなります。標準は、セット長が 34.0～37.0 mm の間でストップスクリューが車体の外側で真横になる位置です。

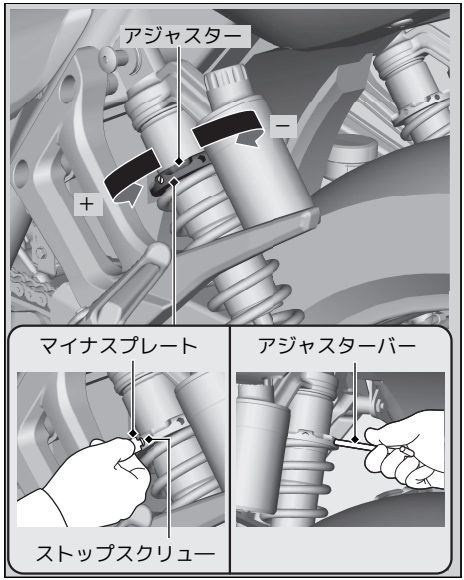


調整は次の手順で行ってください。

1. マイナスプレートを使いストップスクリューを緩める。
   ▶ マイナスプレートは携帯工具の中に入っています。 P. 51
2. アジャスターバーを使いアジャスターを回しスプリングの強さを調整する。
   ▶ アジャスターバーは携帯工具の中に入っています。 P. 51
   ▶ セット長は 28.0～47.5 mm の範囲で調整してください。
   ▶ アジャスターを＋側に回すとセット長は長くなり、－側に回すと短くなります。
3. ストップスクリューを締め付ける。

アドバイス

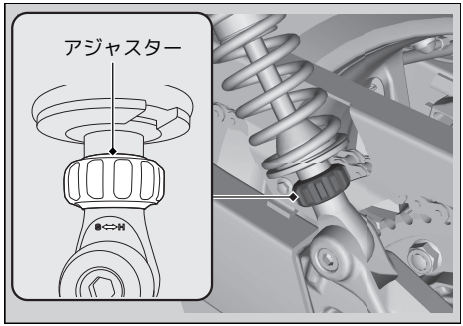
アジャスターは、無理に回さないでください。
左右の強さは必ず同じにしてください。



次ページに続く

伸び側減衰力

体重や路面の状態に応じ、伸び側減衰力を調整できます。
減衰力の強さは、アジャスターを回して調整します。アジャスターを H 側に回すと強くなり、S 側に回すと弱くなります。アジャスターを H 側に軽く止まるまで回したあと、S 側に戻し、最初のクリックする位置が 0 段（最強位置）です。標準は、アジャスターを 0 段から S 側に 18 クリック戻した位置（18 段目）です。

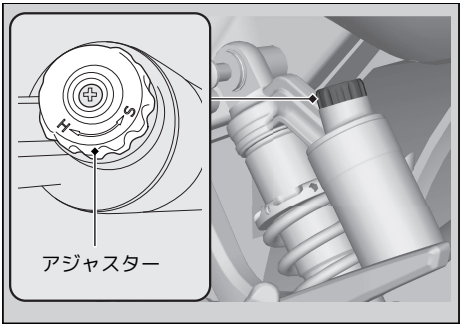


アドバイス

アジャスターは、無理に回さないでください。
左右の強さは必ず同じにしてください。

縮み側減衰力

体重や路面の状態に応じ、縮み側減衰力を調整できます。
減衰力の強さは、アジャスターを回して調整します。アジャスターを H 側に回すと強くなり、S 側に回すと弱くなります。アジャスターを H 側に軽く止まるまで回したあと、S 側に戻し、最初のクリックする位置が 0 段（最強位置）です。標準は、アジャスターを 0 段から S 側に 14 クリック戻した位置（14 段目）です。



アドバイス
アジャスターは、無理に回さないでください。
左右の強さは必ず同じにしてください。

こんなときは

エンジンが始動しない（HISS 表示灯が消灯しない）.....P. 97
オーバーヒート（水温警告灯が点灯）.....P. 98
警告灯が点灯／点滅.....P. 99
油圧警告灯.....P. 99
PGM-FI 警告灯.....P. 99
ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯.....P. 100
トルクコントロール警告灯.....P. 100
その他の故障表示.....P. 101
燃料計の故障表示.....P. 101
ハンドルグリップヒーターの故障表示.....P. 102
電装部品のトラブル.....P. 103
ヒューズ切れ.....P. 103

スターターモーターは作動するがエンジンが始動しないとき

次の点を確認してください。

- 正しい手順でエンジンをかけているか ➡P. 37
- 燃料タンクにガソリンはあるか
- PGM-FI 警告灯が点灯していないか
  - ▶ 点灯している場合は、直ちに Honda 販売店にご相談ください。
- HISS 表示灯が点灯したままになっていないか
  - ▶ メインスイッチを◯（Off）にしてキーを抜き、再度キーを差し込み、メインスイッチを▌（On） にしてください。それでも消灯しないときは、次の点を確認してください。
    他の HISS のキー（予備のキーを含む）が、メインスイッチの近くにあると通信不良の原因となります。
    キーに金属製のシールなどを貼ると通信不良の原因となります。
    確認しても消灯しない場合は、Honda 販売店にご相談ください。

スターターモーターが作動せず始動できないとき

次の点を確認してください。

- 正しい手順でエンジンをかけているか ➡P. 37
- ヒューズが切れていないか ➡P. 61
- バッテリーターミナル部に緩みや腐食がないか ➡P. 60

これらに該当しない場合や異常がある場合は、Honda 販売店にご相談ください。

次のようなときは、オーバーヒートです。
- 水温警告灯が点灯している
- 走行時の加速が急に悪くなる

このようなときは直ちに安全な場所に車を停めて次の処置・確認を行ってください。

アドバイス
オーバーヒートの状態で走行を続けると、エンジン故障の原因となります。

長時間のアイドリングにより、水温警告灯が点灯する場合があります。

オーバーヒートの処置

1. メインスイッチを○（Off）にしてエンジンを止め、再度メインスイッチを|（On）にする。
2. ラジエーターの冷却ファンが作動するか作動音で確認し、メインスイッチを○（Off）にする。

冷却ファンが作動しない場合
故障が考えられますので、エンジンをかけずHonda 販売店にご相談ください。

冷却ファンが作動している場合
メインスイッチが○（Off）の状態で、エンジンが冷えるのを待ちます。

3. エンジンが冷えてから、リザーバータンクの冷却水を点検し、冷却水が不足していたら補給する。 ➔P. 77, ➔P. 77
4. ラジエーターホースなどを点検し、水漏れがないか確認する。

水漏れがある場合
エンジンをかけず、Honda 販売店にご相談ください。

5. 水温警告灯を確認しながら走行する。
   ▶ 異常がなければ走行可能ですが、異常が再発しない場合でも、なるべく早くHonda 販売店で点検を受けてください。

油圧警告灯

エンジンオイルの油圧が低下すると点灯します。油圧警告灯が点灯したら、速やかにエンジンを停止し、次の点を確認してください。

アドバイス
油圧が低下した状態で走行を続けると、エンジンが故障するおそれがあります。

1. オイルレベルを点検し、必要に応じて補給する。P. 75
2. エンジンを始動する。
   - ▶ 油圧警告灯が消えたら、走行できます。
   - ▶ 消灯しない場合は、エンジンを止めてHonda 販売店にご相談ください。
   - ▶ 急な加速をすると油圧警告灯が瞬間的に点灯する場合があります。（特にオイルレベルが下限、下限付近の場合）
   - ▶ オイルが減っていた場合、オイル漏れや故障のおそれがありますので、Honda 販売店で点検を受けてください。

PGM-FI 警告灯

PGM-FI 警告灯が点灯または点滅する理由

- 排出ガス制御システムに問題がある場合
- エンジンの失火が検出された場合

PGM-FI 警告灯が点灯したときの対処方法

高速走行をさけ、直ちに Honda 販売店にご相談ください。

PGM-FI 警告灯が点滅したときの対処方法

高温になる部分に可燃物が接触しない安全な場所に車両を駐車し、メインスイッチが○（Off）の状態で、エンジンが冷えるのを待ちます。

アドバイス
PGM-FI 警告灯が点灯した状態で走行を続けると、排出ガス制御システムやエンジンが故障する恐れがあります。

アドバイス
エンジンを再始動したときに PGM-FI 警告灯が再び点滅する場合は、高速走行をさけ、最寄りの Honda 販売店にご相談ください。

ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯

警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、Honda 販売店にご相談ください。

- 運転中に点灯または点滅したとき
- メインスイッチを▌(On) にしても点灯しないとき
- 10 km/h 以上で走行しても消灯しないとき

警告灯が点灯または点滅した場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。(ABSとしての作動はしません)

ABS 警告灯が消灯しているときに、後輪が持ち上がった状態で後輪を空転させると、警告灯が点滅する場合があります。この場合はメインスイッチを◯(Off) にし、再度メインスイッチを▌(On) にします。警告灯が点灯し、速度が約 30 km/h に達して消灯すれば正常です。

トルクコントロール警告灯

警告灯が以下のような状態になった場合、トルクコントロールの異常が考えられますので、Honda 販売店にご相談ください。

- 走行中に点灯し続けたとき
- メインスイッチを▌(On) にしても点灯しないとき
- 5 km/h 以上で走行しても消灯しないとき

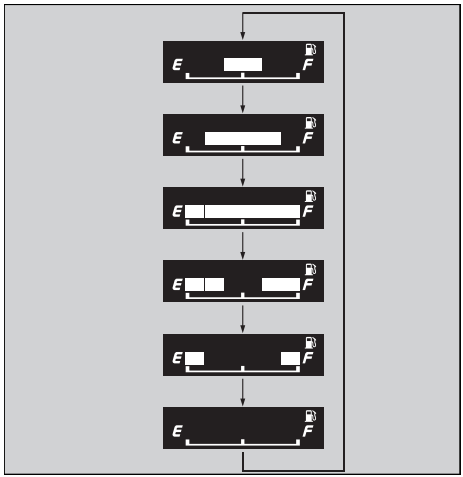
警告灯が点灯した場合でも走行は可能です。(トルクコントロールは作動しません)

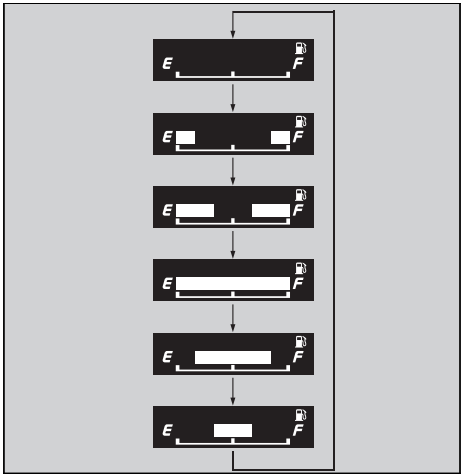
▶ トルクコントロール作動中に警告灯が点灯したときは、一度スロットルグリップを完全に閉じることで、通常の状態に戻ります。

トルクコントロール警告灯が消灯した状態で、メインスタンドを立てるなどして後輪を空転させた場合、警告灯が点灯する場合があります。この場合はメインスイッチを◯(Off) にし、再度メインスイッチを▌(On) にします。警告灯が点灯し、速度が約 5 km/h に達して消灯すれば正常です。

燃料計の故障表示

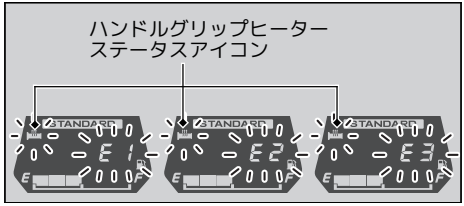
燃料計のマークが下図のように点灯、消灯をくりかえしたときは、Honda 販売店にご相談ください。





ハンドルグリップヒーターの故障表示

ハンドルグリップヒーターステータスアイコンと“E1”、“E2”、“E3” 表示が点滅した場合、ハンドルグリップヒーターの異常が考えられますので、Honda 販売店にご相談ください。



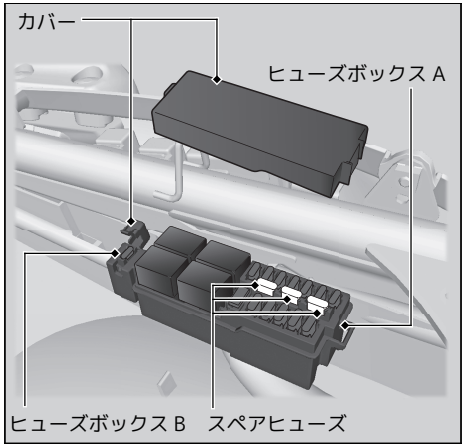
ハンドルグリップヒーターに異常がある場合は、ハンドルグリップヒーター表示灯も点滅します。

ヒューズの取り扱いについてはメンテナンスの基礎知識をご確認ください。➡P. 61

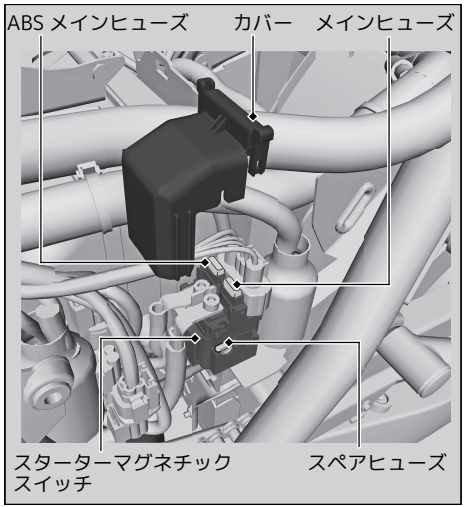
ヒューズ切れ

ヒューズボックス内のヒューズ

1. シートを取り外す。➡P. 70
2. ヒューズボックス A のカバーを取り外す。または、ヒューズボックス B のカバーを開ける。
3. ヒューズが切れている場合はヒューズプーラーを使って、同じ容量のスペアヒューズと交換する。
   ▶ ヒューズプーラーは携帯工具の中に入っています。➡P. 51
4. ヒューズボックス A またはヒューズボックス B のカバーを閉じる。
5. 外した部品を逆の手順で取り付ける。



メインヒューズ、ABS メインヒューズ



1. 左サイドカバーを取り外す。P. 69
2. スターターマグネチックスイッチのカバーを取り外す。
3. メインヒューズ、ABS メインヒューズが切れている場合はヒューズプーラーを使って、同じ容量のスペアヒューズと交換する。
   - ▶ ヒューズプーラー は携帯工具の中に入っています。P. 51
   - ▶ スペアヒューズはスターターマグネチックスイッチの横にあります。
4. 外した部品を逆の手順で取り付ける。

アドバイス

ヒューズが切れた際は、早めに Honda 販売店で点検し、スペアのヒューズを補充してください。

インフォメーション

サービス診断記録装置について.....P. 106
キーの取り扱い.....P. 107
装備に関する補足情報 .....P. 108
車のお手入れ.....P. 110
保管のしかた .....P. 113
廃棄するとき .....P. 114
フレームおよびエンジンナンバー .....P. 116
触媒装置について.....P. 117

サービス診断記録装置について

この車には、システムを制御するためのコンピューターが搭載されており、次の内容をデータとして記録します。

- 故障診断状態
- 運転状態

Honda および Honda が委託した第三者は、記録されたデータを技術的な診断や Honda の車両の研究開発のために、取得、利用することがあります。 なお、会話等の音声や映像は記録されません。

キーの取り扱い

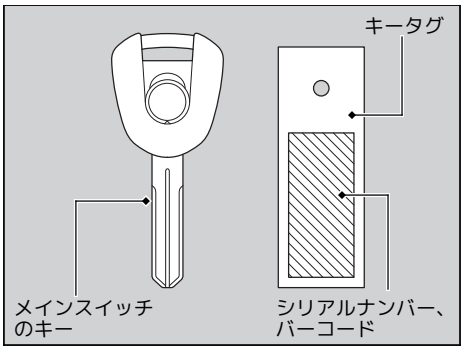
メインスイッチのキー

メインスイッチのキーには、キータグが付属します。キータグにはシリアルナンバーとバーコードがあります。
メインスイッチのキーには、HISS（イモビライザーシステム）の電子部品が内蔵されています。電子部品の破損またはデータ異常の発生を防ぐため、取り扱いの際には次のことをお守りください。

- キーを無理に曲げたり、強い衝撃を与えない
- 長時間、直射日光にさらしたり高温下で放置しない
- 削ったり、穴を開けない
- 強い磁気を帯びた場所に置かない

キー、キータグをすべて紛失した場合、イグニッションユニットの交換が必要になります。予備のキー、キータグは大切に保管してください。
予備のキーの作成については、専用のキーおよびHISS の再登録が必要になりますので、Honda 販売店にご相談ください。

キーに金属製のキーホルダーを使用するとメインスイッチ周辺に傷がつくおそれがあります。



装備に関する補足情報

メインスイッチ

エンジンをかけずにメインスイッチを|（On） の状態にしておくとバッテリーあがりの原因となります。

走行中はメインスイッチのキーを操作しないでください。

エンジンストップスイッチ

このスイッチは、非常時に、すぐにエンジンを止めるために設けたものです。非常時以外は使用しないでください。走行中に操作すると、エンジン回転が不安定になり、走行に悪影響を与えます。
非常時にこのスイッチでエンジンを止めた場合は、メインスイッチを必ず○（Off） にしてください。|（On） のままにしておくと、バッテリーあがりの原因となります。

オドメーター

オドメーターは、999,999 km を超えると 999,999 km でロックします。

トリップメーター

トリップメーター A／B は、9,999.9 km を超えると 0.0 km に戻ります。

アシストスリッパークラッチシステム

アシストスリッパークラッチは、走行時のシフトダウンによる急激なエンジンブレーキを緩和することで、リヤタイヤのロックを防ぎ、クラッチ操作を容易にするシステムです。
エンジンオイルは MA 分類のものを使用してください。MA 分類以外のエンジンオイルを使用すると、アシストスリッパークラッチシステムの故障の原因になります。

HISS

HISS は、登録されたキー以外ではエンジンを始動できないようにしたイモビライザー（盗難防止）システムです。
エンジンストップスイッチが（Run）の状態でメインスイッチを（On）にすると、HISS 表示灯が点灯し、数秒後に消灯することでエンジンの始動が可能であることを示します。消灯しない場合は始動できません。
HISS 表示灯が消灯しないとき P. 97

HISS 表示灯は、メインスイッチを（Off）にしたあと 2 秒間隔の点滅を開始し、24 時間経過すると消灯します。
メーターの設定機能を使用して、HISS 表示灯の点滅／非点滅の切り換えを行うことができます。
メーターの設定 P. 28

書類入れ

取扱説明書、登録書類、保険証、メンテナンスノートなどは書類入れに入れ、シート裏側に収納してください。

イグニッションカットオフシステム

この車は、転倒したとき、自動的にエンジンを停止するシステムが装備されています。エンジンを再始動するときは、システムの作動を解除するためにメインスイッチを一度（Off）にしてください。

スロットルバイワイヤシステム

この車は、スロットルバイワイヤシステムが装備されています。
磁化されているものや磁気の干渉を受けやすいものは、右側のハンドルスイッチ周辺に近づけないでください。

ヘッドライト、ストップ／テールランプ、フロントウィンカー、リアウィンカー

LED 使用のライトは一体式です。
もし、1 個でも点灯しなくなった場合は、Honda 販売店にご相談ください。

車のお手入れ

お車を長持ちさせるため、清掃などのお手入れは大切です。普段見逃しがちな異状の発見にもつながります。また、海水や路面凍結防止剤などに含まれる塩分は、車体のサビを促進します。海岸付近や凍結防止剤を散布した路面を走行したあとは、必ず洗車してください。

洗車

エンジン、マフラー、ブレーキなど高温になる部分は冷えるまで洗車しないでください。

1. 全体を水洗いして、汚れを取り除く。
2. 汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤を使用し、スポンジか柔らかいタオルを使って洗う。
   ▶ 傷を防ぐため、多量の水を使って、汚れを落としてください。
3. 十分な水で洗剤を洗い流しやわらかい布で拭きあげる。
4. 車体を乾燥させた後、ドライブチェーンと可動部分に注油する。
5. 車体の腐食を防ぐためワックスがけを行う。

洗車にあたっての注意

洗車するときは、次のことをお守りください。

- 高圧洗車機の使用はさける
  ▶ 車体に高い水圧がかかる洗車を行うと、可動部や電装部品などの作動不良や故障の原因となることがあります。
  ▶ ヘッドライトレンズやフェアリング、その他のプラスチック部品を洗うときは、傷を防ぐため、多量の水を使って、汚れを落としてください。
- マフラーに水を入れない
  ▶ 始動不良やサビの発生などの原因になります。
- シートの下方から水を強くかけない
  ▶ 内部に水が入り、書類などが濡れることがあります。
- エアクリーナー周辺に水を強くかけない
  ▶ エアクリーナー内部に水が入ると、始動不良などの原因になります。
- ブレーキを濡れたままにしない
  ▶ 水によってブレーキの効き具合が悪くなることがあります。洗車後は十分に乾かし、慎重なブレーキ操作を心がけてください。

● ワックス、ケミカル類や油脂類を扱うとき
▶ ブレーキやタイヤにオイル等の油脂類、ワックスやケミカル類が付着しないよう注意してください。ブレーキが効かなくなり、事故の原因になる場合があります。
▶ ワックスやケミカル類を使用するときは、ボディーの目立たないところでくもりや傷、色むらなどが生じないか確認してください。種類によっては塗膜が薄くなったり色むらが生じるものがあります。
▶ つや消し塗装が使われている場合は、塗装面にワックスやケミカル類を使用すると、つや消し感が無くなったり、色むらが生じるおそれがありますので、使用しないでください。

● ヘッドライトがくもったとき
▶ ヘッドライトは雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的にくもることがあります。また、ヘッドライト内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。これは、雨天時などに窓ガラスがくもるのと同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。
また、ヘッドライトの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。
但し、ヘッドライト内に水がたまっている場合や大粒の水滴がついている場合は Honda 販売店にご相談ください。

次ページに続く

アルミ部品

アルミ部品は土や泥、あるいは塩分によって腐食します。傷をつけないよう、取り扱いについては次のことに注意してください。

- 硬いブラシやスチールウールを使用しない
- アルミホイールはすり当てをさけ、縁石などに乗り上げる際は変形に注意する

樹脂部品

傷やひび割れ等を防ぐため、取り扱いについては次のことに注意してください。

- 清掃するときは多量の水を使って、やわらかい布やスポンジで汚れを落とす
- 汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤を使用し、十分な水で洗剤を洗い流す
- メーター、スクリーン、フェアリング、ヘッドライトレンズなどの樹脂部品にガソリン、ブレーキ液、クリーナーなどがかからないようにする
- CB1300 SUPER BOL D'OR／CB1300 SUPER BOL D'OR SP
  スクリーンに貼付されているコーションラベルをはがさない

エキゾーストパイプ、マフラー

ステンレス鋼を使用していますので、油脂などの汚れが付着したままエンジンを始動すると、焼けムラが起こります。
汚れが付着した場合は、ステンレス用台所洗剤を使って、やわらかい布かスポンジで洗い落としてください。洗浄後は、十分に水洗いして乾いた布で水分を拭き取ってください。
焼けムラをとる場合は、市販の細目のコンパウンドで磨いたあと、汚れが付着した場合と同じ要領で洗い落としてください。
エキゾーストパイプ、マフラーが塗装されている場合は、ステンレス用台所洗剤や市販のコンパウンドを使用しないでください。塗装面の清掃には中性洗剤を使用してください。もし、塗装処理されているかわからない場合は、Honda 販売店にご相談ください。

アドバイス

ステンレス鋼を使用している場合でも、塗装をしているものもあります。
目立たないところでくもりや傷、色むらなどが生じないか確認してください。

保管のしかた

屋外に保管する場合はボディーカバーをかけてください。なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。
また、長期間ご使用にならない場合は、次のことをお守りください。

- サビを防ぐために、保管前にワックスがけを行う（つや消し塗装面を除く）
- 雨上がりにはボディーカバーを外し、車体を乾燥させる
- バッテリーは自己放電と電気漏れを少なくするため、車から取り外し、完全充電して風通しのよい暗い場所に保存する
  - ▶ もしバッテリーを車に積んだままにする場合は、⊖側ターミナルを外してください。

長期保管後にお車を乗る際は、保管期間を考慮した上で、各部の点検を実施してください。

廃棄するとき

地球環境を守るため、お車や交換した部品、なかでも使用済みのバッテリーやタイヤ、エンジンオイルの廃油等はむやみに捨てないでください。これらのものを廃棄する場合は、Honda 販売店にご相談ください。
また、将来お車の廃棄を希望するときはお近くの廃棄二輪車取扱店へご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは

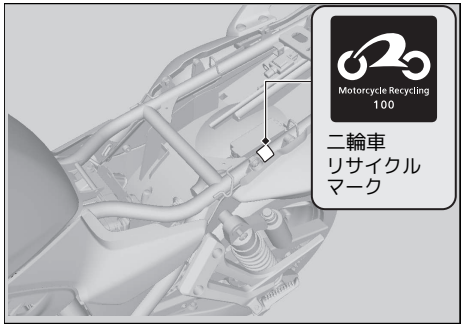
一般社団法人 全国軽自動車協会連合会の登録販売店で広域廃棄物処理指定店として登録されている廃棄二輪車を適正処理するための窓口です。
店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が掲示されています。





二輪車リサイクルマーク、リサイクル料金

この車には、二輪車リサイクルマークが車体に貼付されています。マークが車体に貼付されている二輪車は、再資源化するためのリサイクル費用がメーカー希望小売価格に含まれていますので、二輪車を廃棄する際は、再資源化に必要なリサイクル料金はいただきません。
ただし、廃棄二輪車取扱店および指定引取場所までの収集・運搬料金はお客様のご負担となります。収集・運搬料金については廃棄二輪車取扱店にご相談ください。
二輪車リサイクルマークは、シートを取り外すと確認できます。➔ P. 70



お車を廃棄する際、二輪車リサイクルマークが必要です。マークは剥がさないでください。マークの再発行や販売の取り扱いはありません。二輪車リサイクルシステムの概要、ご利用方法等は、Hondaウェブサイト「廃棄段階のリサイクル　二輪車リサイクル自主取り組み」にてご確認いただけます。
http://www.honda.co.jp/motor-recycle/

ダンパーユニット

リアサスペンションのダンパーユニットには、高圧窒素ガスが封入されています。廃棄する場合は、Honda 販売店にご相談ください。

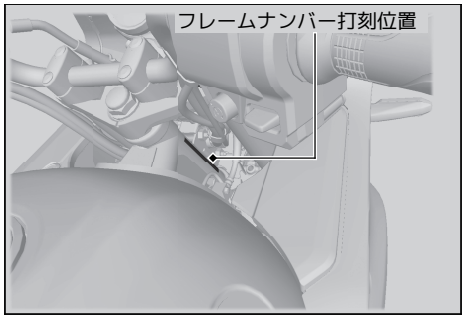
⚠ 警告

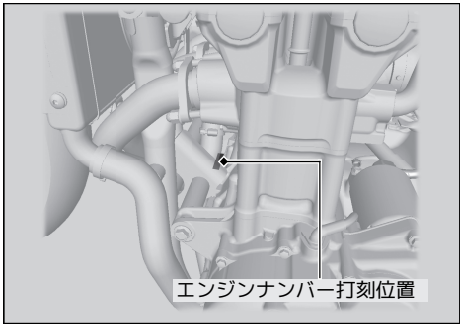
高圧窒素ガスが封入されたダンパーユニットを火中に入れたり、穴を開けたり、分解したりすると、爆発や破裂するおそれがあり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

ダンパーユニットは、
- 火中に入れないでください。
- 穴を開けないでください。
- 分解しないでください。

フレームおよびエンジンナンバー

フレームおよびエンジンナンバーは、部品を注文するときや、車の登録に関する手続きに必要です。また、フレームナンバーは、お車が盗難にあった場合に、車を捜す手がかりにもなります。ナンバープレートの登録番号とともに別紙に記録し、車と別に保管することを推奨します。





触媒装置について

この車は平成 32 年排出ガス規制適合車です。この車には触媒装置が搭載され、排出ガスに含まれる一酸化炭素（CO）、炭化水素（HC）、窒素酸化物（NOx）の 3 つの有害物質の排出量を低減します。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。触媒装置は高温になるので、枯れ草や紙など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。

走行上の注意

次のような取り扱いはしないでください。触媒温度が異常に高くなり、損傷するおそれがあります。

- 走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチを操作すること
- 空ぶかし直後にエンジンを止めること

触媒装置の損傷を防ぐために

触媒装置が損傷すると、排出ガス濃度を劣化させるだけではなく、車本来の性能を発揮できなくなります。損傷を防ぐために、次のことをお守りください。

- 燃料は、必ず無鉛ガソリンを使用する
- 定められた点検整備を実施する
- エンジン不調を感じたときは、直ちに Honda 販売店で点検を受ける

■ 主要諸元

型式	8BL-SC54
全長	2,200 mm
全幅	**CB1300 SUPER FOUR** **CB1300 SUPER FOUR SP** 795 mm
	CB1300 SUPER BOL D'OR **CB1300 SUPER BOL D'OR SP** 825 mm
全高	**CB1300 SUPER FOUR** 1,125 mm
	CB1300 SUPER BOL D'OR 1,205 mm
	CB1300 SUPER FOUR SP 1,135 mm
	CB1300 SUPER BOL D'OR SP 1,215 mm
ホイールベース	1,520 mm
最低地上高	**CB1300 SUPER FOUR** **CB1300 SUPER BOL D'OR** 130 mm
	CB1300 SUPER FOUR SP **CB1300 SUPER BOL D'OR SP** 140 mm
キャスター角	25° 00′
トレール長	99 mm

車両重量	**CB1300 SUPER FOUR** **CB1300 SUPER FOUR SP** 266 kg	
	CB1300 SUPER BOL D'OR **CB1300 SUPER BOL D'OR SP** 272 kg	
乗車定員	2 名	
最小回転半径	2.7 m	
排気量	1,284 cm^3	
ボア×ストローク	78.0 x 67.2 mm	
圧縮比	9.6	
燃料	無鉛レギュラーガソリン	
燃料タンク容量	21 ℓ	
バッテリー容量	YTZ14S 12 V-11.2 Ah (10 HR)	
変速比	1 速	3.083
	2 速	1.941
	3 速	1.478
	4 速	1.240
	5 速	1.074
	6 速	0.967
減速比	1 次	1.652
	2 次	2.222

■ サービスデータ

タイヤサイズ	前輪	120/70ZR17M/C (58W)
	後輪	180/55ZR17M/C (73W)
タイヤタイプ		ラジアル、チューブレス
指定タイヤ	前輪	BRIDGESTONE BATTLAX SPORT TOURING T30F J
		DUNLOP ROAD SMART III P
	後輪	BRIDGESTONE BATTLAX SPORT TOURING T30R E
		DUNLOP ROAD SMART III P
タイヤ空気圧	前輪	250 kPa (2.50 kgf/cm²)
	後輪	290 kPa (2.90 kgf/cm²)
最小残溝量	前輪	1.5 mm
	後輪	2.0 mm
点火プラグ	標準	DPR8EA-9（NGK）または X24EPR-U9（DENSO）
プラグギャップ		0.80 - 0.90 mm
アイドル回転数		1,100 ± 100 rpm
推奨エンジンオイル	Honda 純正　ウルトラ G1	
	JASO T 903 規格：MA	
	SAE 規格： 10W-30	
	API 分類： SL 級	
エンジンオイル容量	オイル交換時	3.8 ℓ
	フィルター交換時	4.0 ℓ
	全容量	4.6 ℓ
エンジンオイル交換時期	初回： 1,000 km または 1 ヶ月	
	以後： 10,000 km または 1 年ごと	

推奨ドライブチェーンオイル	“Honda 純正チェーンオイル” または相当品
ドライブチェーンの緩み（たるみ）	25 - 35 mm
指定ブレーキ（クラッチ）液	Honda 純正ブレーキフルード DOT4
冷却水容量	2.81 ℓ
指定ラジエーター液	Honda 純正ウルトララジエーター液
エアクリーナー交換時期	交換：40,000 km ごと

■ バルブ（電球）

ヘッドライト	LED
ストップ/テールランプ	LED
フロントウィンカー・ポジションランプ	LED
リアウィンカー	LED
ライセンスプレートライト	12 V-5 W

■ ヒューズ

メインヒューズ	30 A
その他のヒューズ	30 A、20 A、10 A

索引

A
ABS 警告灯 29
ABS（アンチロックブレーキシステム） 6, 100

E
ETC 車載器/ETC 表示灯/ETC アンテナ 55

H
HISS 28, 109

P
PGM-FI 警告灯 29

ア
アクセサリー 11
アシストスリッパークラッチシステム 108
安全運転のために 3
安全上守っていただきたいこと 3
安全なライディング 2

イ
イグニッションカットオフシステム 109
インフォメーション 105

ウ
運転するときの注意 5

エ
エアクリーナー 63
エンジン
エンジンオイル 75
エンジン始動 37
エンジンストップスイッチ 108
エンジンナンバー 116
エンジンオイル 62
エンジンがかからないとき 97

オ
オーバーヒート 98
お手入れ 110
オドメーター 108

カ
改造 11

各部の名称 14
ガソリン 9, 47

キ
ギアチェンジ 39

ク
クラッチ
クラッチ 81
クラッチ液 81
クラッチレバー 84
クリップ 69

ケ
警告灯
ABS 警告灯 29
PGM-FI 警告灯 29, 99
ABS（アンチロックブレーキシステム）警告灯 100
水温警告灯 29
トルクコントロール OFF 警告灯 30
トルクコントロール警告灯 30, 100
油圧警告灯 29, 99
携帯工具 51

コ
こんなときは 96

サ
サイドスタンド 7
サスペンション
フロントサスペンション 85
リアサスペンション 90

シ
シート 70
触媒装置 117
書類入れ 51, 109

ス
水温警告灯 29

スイッチ
ウィンカースイッチ 32
エンジンストップスイッチ 33
クルーズコントロールメインスイッチ 33
クルーズコントロールレバー 33
スタータースイッチ 33
トルクコントロールスイッチ 33
ハザードスイッチ 32
パッシングライトスイッチ 32
ハンドルグリップヒータースイッチ 32
ヘッドライト上下切り換えスイッチ 32
ホーンスイッチ 32
メインスイッチ 33, 108
スピードメーター 22
スペック 118
スロットル 83

セ
積載について 12
洗車 110

ソ
その他装備 50

タ
タイヤ 65
タコメーター 22

チ
駐車 7

テ
点検
定期点検 58
日常点検 57
電装部品のトラブル 103

ト
時計 28
ドライブチェーン 64, 80
トリップメーター 108
トルクコントロール 35
トルクコントロールスイッチ 33

ナ

慣らし運転 5

ネ

燃料

使用燃料 47

燃料計 23

燃料タンク容量 47

燃料補給 47

燃料計の故障表示 101

ハ

廃棄 114

バッテリー 60, 71

ハンドルグリップヒーター

故障表示 102

ヒ

左サイドカバー 69

ヒューズ 61, 103

表示灯

ETC 表示灯 31

HISS 表示灯 31

クルーズコントロールセット表示灯 30

クルーズコントロールメイン表示灯 30

ニュートラル表示灯 31

ハイビームパイロットランプ 31

ハンドルグリップヒーター表示灯 31

方向指示器表示灯 31

フ

服装 3

ブリーザードレーン 65, 82

ブレーキ

使いかた 5

ブレーキ液 63, 78

ブレーキシステム 5

ブレーキパッド 79

フレームナンバー 116

ブレーキレバー 84

ヘ

ヘルメット 4

ヘルメットホルダー 50

ホ
ホーンスイッチ 32
保管 113

メ
メインスイッチ 33, 108
メインスイッチのキー 107
メンテナンス 56

モ
モードボタン 32

ユ
油圧警告灯 29

リ
リサイクルマーク 114

レ
冷却水 63, 77
レッドゾーン 22

お問い合わせ

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まずHonda 販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受けいたします。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　0120-086819（オーハローバイク）

受付時間　9：00～12：00　13：00～17：00

〒351-0188　埼玉県和光市本町 8-1

所在地、電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、敏速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証や届出済証などの登録書類をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

①車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日

②車種名、タイプ名、走行距離

③ご購入年月日

④販売店名

HONDA

The Power of Dreams

30MFP660
00X30-MFP-6600

© XXXX.XXXX.XX.M
© 2020 本田技研工業株式会社